

五稜



第33号 (平成5年度)

五稜中学校校歌

小 島 昌 平 作詩
酒 井 武 雄 作曲

J-108-112



一
いんがしに 吉城がやて
ただなわき 五稜が丘に
若人の息吹きに満ちぬ
形だ ふるもまたたれ
新しき光に立ちて
大なる力 伸べらん

二
さくら花 しんと仰ぎ
友がまの 堅く結びて
うち鳥より 自主の鐘の音
ひとしに まこととたねの
條々ゆく 理想の空を
あめとちになれと 空をあれ



新入生歓迎会①



入学式・校長あいさつ



新入生歓迎会②



着任式



身体測定



入学式



登校観察



学級発表



陸上大会



中体連陸上



中体連陸上



壮行式



中体連総合壮行式



報告会



サッカー



報告会 2



応 援



応 援 団



受 賞



野 球



渡 島 大 会



渡 島 大 会



野 球



校 外 清 掃



体 育 大 会



ボ ラ ン テ ィ ア (五 稜 郭)



体 育 大 会



ボ ラ ン テ ィ ア 研 究 会
ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 公 開 研 究 会



体 育 大 会



ボ ラ ン テ ィ ア 研 究 大 会



体 育 大 会



文化祭 (将棋)



文化祭 (合唱)



文化祭 (展示)



文化祭 (弁論)



文化祭 (バザー)



文化祭 (茶道)



文化祭 (バザー)



文化祭 (演劇)



修学旅行出発



立会演説



宿泊研修



生徒会役員



AET来校



全校集会



授業風景



花壇整備

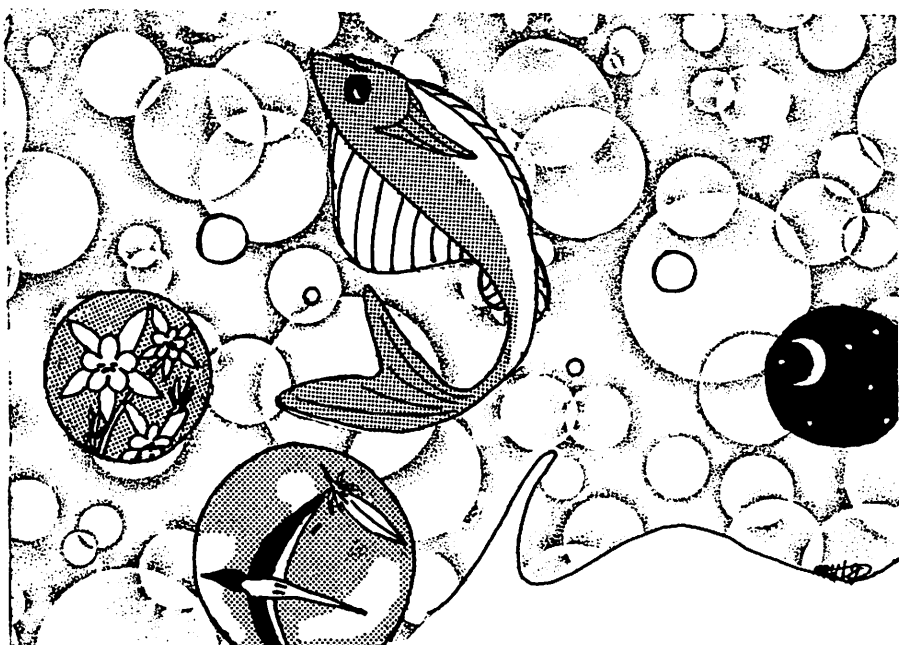
✿ 平成5年度教職員 ✿



目 次

○グラビア写真

○巻 頭 詩	1
「君たちへ」	前校長 金山正智 2
「人生の基礎づくりのために」	校長 近野 功 3
「人生の幕開き」	P T A会長 廣部七郎 4
霧に浮かぶ Y子のおもかげ	教頭 斎藤正宏 5
生徒会テーマ・ポスター作品	6
新総務抱負を語る	7
一年を振り返って	9
生徒会一年の足跡	11
専門委員会活動報告	15
贈る言葉 学年関係の先生・職員から	19
在校生より	25
卒業生より	26
部 活 動・この一年・	27
思い出をこのページに残して	35
ボランティア	44
修学旅行の思い出	45
栄誉を讃えて	50
1・2年学級プロフィール	52
宿泊研修旅行の思い出	57
生徒会座談会	59
文 苑	62
職員住所録	71
編集後記	72



変

化

三年D組 南部 妙水

今 私たちの目の前には
大きな 大きな 分岐点
皆 自分で選び
自分で歩いていく

ある人は鳥になるだろう
ある人は花になるだろう
ある人は魚になるだろう
ある人は 何にもなれないかもしれない

私たちには翼がないから
別れた友に 会いたい人に
すぐに会いに行けないけど
忘却の波に 想い出が
負けてしまうかもしれないけど

恐れずにいこう
後悔せぬように
信じていきたい
永遠にかなわぬものが 何処かにあると



「君たちへ」

前校長 金山正智

先日、機会があつて初めて硬式のテニスボールを打ってみた。飛んでくるボールは、君たちが使っている軟式にくらべるとスピードがまるで違う。ラケットで返そうとしたが、ボールの圧力に負けてとんでもない方面に弾き飛ばされてしまった。かくてはならじと、気合を入れ直してボールをしっかり打ったら、今度は相手コートのエンドラインのはるか後方に飛んでいった。まるでコントラールができない。テニスには「面をつくる」という言葉があるそうで、いかなる難球といえども、ラケット面をボールの角度、緩急に応じて適切に對すれば、ボールは必ず相手コートに返るといふ。そのためには、ラケットの面をしっかり固定しなければならぬと教えられた。実際に硬式テニスボールを打つてみて、この言葉の意味を実感できた。

私は、この「面をつくる」という言葉が気に入っている。単にテニスをプレーするうえでの心構えにとどまらず、人との触れ合いや物事にたち向かう人間としての在り方を語っているように思われるからである。いろいろな角度から来る課題を、常に真正面からとらえて処するその姿勢の潔さが快いし、「つくる」という表現に、向かっていく人に意志が強くうかがえるのもうれしい。「面」はなんとなくできるのではなく、自分自身で「つくる」のだという人間の主体意識がよく表れている。

私たちは、人と触れ合うことなしに、また、他の人と関わりをもたずには、一日たりとも暮らすことはできない。そして、私たちの毎日の生活には、新しい課題が次々と現れる。君たちには、自らの「面」をしっかり向けて人と對して欲しいし、未知の事象については、ひるむことなく真正面から取り組んではいと思つてゐる。同時に、これからは、学校や社会での「学問」を通して、自分なりの「面」をより大きく強靱につくりあげていってほしいと願つてゐる。つまるところは、自分なりの「面」は、自分で「つくり」あげるしか道はないのである。…このことは、君たちへの言葉であり、また、新しい仕事についた私自信への自戒の言葉でもある。

たまさか五稜中学校の体育館の横を車で通る時など、君たちの姿が見えはしないかと、伸び上がつて首をめぐらすことが多い。五稜中学校の一員として共に過ごした短い、しかし充実した時間をなつかしく思い起こすのである。

今年の正月は穏やかな日が続く。君たち一人一人が聡明に、たくましく成長していく姿を想像しながら、明るい新春を迎えている。



人生の基礎づくりのために

校長 近野 功

君たちが毎日生活している五稜中学校の校舎は、建築後三十年以上の歳月が経過しています。したがって、外見は古いし、あちこちに補修をした所が見られます。しかし、目に見えない箇所に重要な部分があるのを、君たちは知っているだろうか。

それは地下に施工されている基礎工事なのです。学校のように大きな建築物は、ただ地面の上に乗せるようなわけにはいかないのです。何十年、何百年もの長い間びくともしない、しっかりした基礎工事が施されていなければなりません。工事現場で、長さ十メートル位もあるパイルを大きな音をたてて打ち込んでいるのを、よく見かけることがあるでしょう。建築の規模が大きいほど、基礎工事もしっかりしなければなりません。「緑の下の力持ち」ということばの意味は、まさしくここからきているのです。

さて、基礎工事が重要なのは土台となつて建物を支えるから、ということだけではありません。もっと重要な意味があります。

それは、建物ができ上がった後からでは、基礎工事のやり直しはできないという点です。校舎の壁が崩れ落ちたり、床がはがれたなら修理はできます。しかし、地下の基礎工事が不十分のために、建物が傾いたりした場合は、どうしたらよいだろうか。その建物を横にずらして地下の基礎をやり直すというわけにはいかないでしょう。つまり、基礎工事は後からでは、やり直しができない仕事なのです。

このことを、私たちの人生に置き換えてみたいと思います。

現代では、平均寿命が伸びて人生八十年ともいわれる時代です。そのなかで考えると、中学時代は、八十分の十五しかありません。また、幅を拡げて、青年期と考えてもわずかな年数に過ぎません。しかし、年月を単に時間的な量だけで推しはかるだけではいけません。

この時期こそ、人生の基礎をしっかりと築く大切なときだと思いますが、どうでしょう。

私は、青少年時代の真ただ中にいる君たちを、うらやましく思っています。なぜなら、君たちには、無限の可能性という、貴重な財産があるからです。それは、鍛え方によって、いくらでも健康でたくましくなる肉体であり、つかえばつかうほどしなやかさを増す頭脳です。だから、絶対に宝の持ち腐れにはしては欲しくないのです。人は「自己の運命の建築士である」といわれます。自分の人生は、自分で設計し、つくり上げなければなりません。もちろん、その過程でやり直しのできるものと、できないものがあるのは言うにおよびません。

一見屈託のない、のんびり屋に見える君たちですが、現実の社会の動きを敏感にキャッチする感性は鋭いはずで、必要以上に、過去にこだわら過ぎたり将来に不安を抱く前に、現在ある自分はどう生きるべきか、もう一度、真剣に考えてみてはどうだろうか。



“人生の幕開き”

PTA会長 廣部七郎

三年生の皆さん、いよいよ卒業の時期が来ましたね。皆さんは、この三年間何をして過ごし、何を卒業したのだろうか。

今、振り返ってみると、勉強も部活も或いは生徒会活動に、全力投球して有意義に過ごせたもの、或いは、なんとなく登校し、適当に授業を聞き、クラスの仲間と毎日同じような会話をする。家に帰っても、ファミコンをテレビを見てマンガを読み、試験前だけ少し勉強する。三年間、そういう生活をした人はいないだろうか。これから君達は希望に満ちた人生を歩んで行くのだから、高校、大学、社会へ出てからも、情性で会社に行き、与えられた仕事を無難に消化し、時間が来たら家に帰る。このようなロボット人間にはならないでほしい。何年も同じ事を繰り返して、年を取る。それも人生かと思う。しかし後悔しないだろうか。

格言に「後悔先に立たず」とあるように、一日、一日を大切にする事がどれ程大事であるか、私の年齢にならないと君達には分からないかも知れない。それでは遅いと思う。君達は十五歳、夢と希望がいっぱいである。人間は年齢が高くなる程、時間の流れを早く感じるようになる。五十歳を過ぎた私など、今まで何をしてきたのかと考える事がある。過去を振り返るようになった時は、精神的、肉体的にも老化が始まった時と思う。

君達は、これからが人生の幕開きである。だれにも平等に与えられた人生舞台を、華麗にするか、薄汚れたものにするかは、君達役者の心構え次第である。君達は、名優？ それとも大根役者？ たった一度の人生舞台で、自分をどう生かすか、じっくり考えてほしいものです。自分の演技で観客を沸かす、なかなか難しい事です。その困難が多いほど考え、悩み、それを貫き通した時ほど喜びは二倍にも、三倍にも膨れあがると思う。

人生は一回しかないのだから、自分に忠実に生き、人様のお役に立てる仕事をしてもらいたいものです。人間は夢をもち続けると必ず道が開けます。どうか皆さんが、素晴らしい人生を送られる事を望みます。

最後に一言、一期一会の出会いを大切に持って行ってもらいたいと思います。長い人生いろいろな人との出会いがあります。その中で、多くの事を学んで下さい。出会った人の心にプラスのインパクトを与えられる人間になことが大切だと思います。

「人の心に灯をともしせる人、人の心を暖かく包み込める人、一緒にいると心が和む人、頼り甲斐のある人、いつまでも話がしたくなる人、その人といるとはのぼのとしたものを感じさせる人、太陽のいっぴい当たった座布団のような人」そんな人になりたいものですね。

これから皆さんは多くの人との一期一会を大切にすると同時に、あなたと出会って良かったと言われる人間にお互いになりませんか。



「霧に浮かぶ Y子のおもかげ」

教頭 齊藤 正宏

ゆうやけ空は涙色です 遠い昔の色だから

あの日思い出させる色だから……………

それでも私は 夕陽がきれいだと言えたいのです
ゆうやけ空が美しいと 思える心を持っていたいのです
いつまでも あの日のように……………

Y子

残り少ないカレンダーをめくるある夜、忘れることのない文字を見たのです。思わず消印に目を走らせたなら、七五年一月でした。

「——震える手を押さえながら昔の封筒を開きました。中三のあの数学の活版テストが入ったのもあります。その中には、私の心の故郷があるのです。あれから早くも三年、校舎三階の窓から夕陽を追いかけた日が、遠く霧に沈むほどになってしまいました。

今、私のような思いをする生徒が一人でも多くなる、そんな教師を夢見て、机の上の参考書をこれから開きます。——」

Y子は、一時代昔、私が五稜中学校に居た時の生徒です。ふるまいが控え目で涼しげな目もとが今も思い浮かびます。彼女には悲運な時期がありました。中学二年十一月、生徒会選挙では進んで立候補したのに僅差で破れる。中学三年の五月、修学旅行前日に発熱し不参加。七月、退院直後のため体調整わず中体連正選手を外れる。もしかしたら、悲劇のヒロインで卒業を迎えるのか。そんなばかな、いつも仲間思いで、何ごとにも献身的な生き方をしているのに。

時は過ぎ中学三年の二学期。男生徒も一目置くS、スポーツで鍛え活活なI、中学生になるまでサンタクロースの存在を信じつつクールなMなど、仲間と一しょに放送番組の制作だ、文化祭の準備だと熱中した。数学にも追い込みをかけた。Y子は、校内放送の局長で、朝のさわやかキャスター向きと思えたのでした。

「そこには仕事に夢を見つけないY子になって創作する顔があふれていたその中で真心の温かさを心のつながりの尊さを知ったのです」と記している。熱中した活動の息抜きだったのか夕陽を求めて三階に駆け、はしゃぐ瞬間に中学生の生気がありました。

努力し、苦勞して何かを成し遂げるのは、それ自体が喜びです。しかし、それにもまして嬉しいのは、その苦勞を他の人が分かってくれることです。私には残念ながら人を喜ばす才能はない。ただ、Y子の中学生生活のドラマの片鱗を共有できた。それを嬉しいと思ってくれているし、また、私の喜びでもあるのです。

卒業目前の君達も真剣に生きてきました。だから、ドラマを共有する仲間、家族、先生がいて、皆、君の明日を応援しているのです。数日するとY子からの年賀状が届きます。かわいい三人の写真入りで。彼女は教育大を卒業したけど、キャスターも教師の道も選ばなかった。でも、真剣に生きた中学生生活のことを、キャスター以上に我が子に伝えているだろうし、子育てには教師以上に親の役目は重い。君の先輩は、今また、真剣に生きています。

TRY OUR BEST

～ 一歩ずつ夢の実現へ…… ～



3年A組 斉藤 真由美

金賞 受賞 作品

文化祭ポスターコンクール



2年A組 山崎 千穂



1年C組 東谷 麻祐子

新総務抱負を語る

新生徒会総務として活動するにあたって

会長 杉村哲人

時のたつのははやい、という人は今までに一杯いると思うが、この数週間ほどそう感じた時はあまりありませんでした。とにかく、自分がやろうと思っていたことをやろうと思いました。僕がやろうと思っていたことは、生徒の意見をできるだけとりあげていこう、ということでした。しかし、いきなり第一目ですまずいてしまいました。生徒の意見をとりあげる窓口であるVOICEBOXがイタズラや現実性のない意見が多く廃止になってしまったのです。

でも、その後はなんとか仕事もうまくいき勢いにのり押せ押せムードでここまで来てしまいました。こんな乱雑な生徒会総務でいいのだろうか、これからさらに増えていく行事にどう対応すればいいのかなど、なやんでいることはたくさんありますが、昨年の「五稜」に信田先生が卒業生にむけて「おおいに悩みなさい」と書いていたので、これからはなやまながらやっていきたいと思っています。

まだ活動を始めたばかりで、試行錯誤しながら、手さぐりで進んでいる新生徒会長と新生総務ですが、一所懸命がんばりますのでよろしく願います。

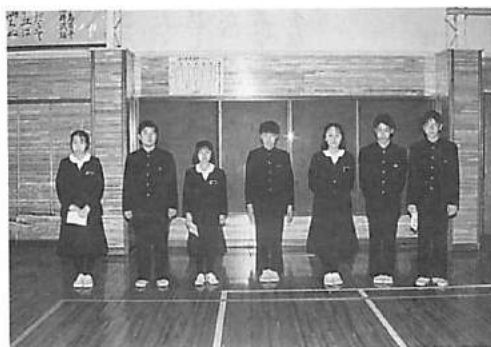
生徒会の仕事の中で

副会長 綱森史泰

生徒会副会長という役目にもやっとなれてきて、生徒会総務に仕

事も、最近はいきなりとできるようになりましたが、最初はいろいろ大変でした。たとえば全校に配っている一枚のプリントでも、その裏では生徒会総務の大変な苦労があるということを知り、実際にも体験してきました。そんな苦労があったときに自分を安息へと導いてくれた言葉が「また明日は来る。」でした……。「今日はこんなに忙しかったけど、また新しい明日がくる。」と心に思い、これからの理想の生徒会＝生徒のための生徒会を創るべく、生徒の代表生徒会副会長としてがんばっていきたいと思うので、みなさんそのサポーター！8人目の生徒会総務として応援して下さい。

よろしくおねがいします。



後期 生徒会総務		会長		副会長		書記		書		計		会	
杉村哲人		綱森史泰		河元美佳		青木嘉郎		東 静香		谷口貴康		倉嶋千恵	

生徒会とは

副会長 河 元 美 佳

副会長としてやらなければならないこと。それは、今の私にはよく分かりません。一つだけわかっていることは、私は、五稜中の生徒のみなさんのために、できるところまで努力しなければならぬということ。これから、あれをやってこれをやってなどは、生徒会にはないのです。生徒会の仕事は、一年間の計画などつくれません。なぜか。それは生徒会とは、生徒の意志しだいで実行できるのです。たとえば、校則をみなおしてほしいとみなさんが、強い意志を持った時に、生徒会が中心になり会議をひらいたり、先生方に伝えたりなどするのが生徒会です。生徒会だけでは、学校をかえることはできません。私は、生徒みなさん全員が、五稜中を築こうと思った時、少しでも力になればと思っています。

生徒会総務の一員として

書記 青 木 嘉 郎

生徒会総務の一員になってから、何ヶ月かがたちました。その何ヶ月の間には、生徒会総務の一員としてじゅうぶんに役目を果たせなかったと思いました。あと約半年の任期の中で、生徒会総務の一員として自分の可能な範囲でじゅうぶん一生懸命に、役目を果たしていこうと思っています。

そして、校則についてなどの問題を生徒会として取りくんできたいと思います。

力が及ばないかもしれませんが、どうぞよろしくおねがいします。

生徒会の書記になつて：

書記 東 静 香

生徒会に入ってから、少し経ちましたが、「生徒会」の仕事をするというのは初めてだったので、まだ、手間取ってしまいうことも、たくさんあります。例えば、終わりをどう表現したら良いのかと、話している最中に迷ってしまい、きちんとした意見述べていることが、できなかったり、話し合いの時に、誰かが述べていることを、素早く書けなかったり、まだまだたくさんあります。そういうことを、なるべくするように努力し、皆さんと協力してがんばりたいと思います。

初めての生徒会総務

会計 谷 口 貴 康

ぼくは、生徒会総務になったときにとて不安でした。生徒会のことともよくわからないし、何か重い責任を背負ったような感じでした。しかし、実際やってみると、なかなか明るい場所でした。でも仕事はけっこう大変だと思います。これから一年間の間、他の総務の人たちとちからをあわせてがんばっていききたいと思っています。

生徒会役員として

会計 倉 嶋 千 恵

今は、大きな行事が無いので主な仕事といえば、あいさつ運動や全校集会ですが、これから沢山ある行事もがんばっていききたいと思っています。また、このような行事だけでは無く、多くの生徒達に不満を持っていると思われる、校則についてなどという問題についてもがんばっていききたいと思いますので、よろしく願います。

一年を振り返って

旧総務からひとこと……

会長	副会長	書記	会計
柏 充	岩 間 政 和	齊 藤 真由美	杉 村 哲 人
		河 元 美 佳	金 沢 秀 司
			川 股 礼 奈

◇旧生徒会総務 一覧◇



生徒会長としての一年間

会長 柏 充

時期がたつのはとてもはやいもので、十一月で一年間の任期を無事終えることができました。私たち生徒会総務にとつての一年間の任期は、あわただしいものだったような気がします。また『五稜三訓の実践化』に重点を置き、毎朝の挨拶運動、校外清掃など取り組んできました。生徒会会長という経験を通して、『自主的に判断することや、チームワークの大切さ』を、直接的に触れ、強く実感することができ、とても良い経験になりました。これも全校生徒皆さんのおかげだと思います。最後に新総務のみなさん、旧総務でできなかった数多くの事に挑戦して、生徒会活動が一步でも進展していくよう頑張ってください。本当に一年間ありがとうございました。

一年

副会長 岩 間 政 和

「一年」それは長いようで短い12ヶ月。人はそれぞれ様々な一年を過ごす。僕は生徒会の副会長としてその一年を過ごしました。卒業式・入学式・体育大会・文化祭・そして全校集会の準備等々をしてきた。今こうして総務の仕事を終えてみるとなんとなく物足りなさを感じられる。でも一年間やってきた思い出は、一生涯ともよい経験となると思います。一年間やってきてとても楽しかったです。どうもありがとうございました。

一年間を振り返って

副会長 齊 藤 真由美

長いように思っていた一年間も、今こうして活動を終えてみると意外と短かったように感じる。しかし、その間に行事の企画、運営を通して多くのことを学んだ。総務になる前まで何となく参加していたものの影には、生徒会総務一人一人の努力や苦勞があったのだということに気づいた。そして、この生徒会総務というものは、学校の中で想像以上に重要な役割をもっていることに気づいた。副会長としてのこの一年間は私にとってよい経験だったと思う。

自分の力で

書記 杉村哲人

僕が生徒会総務を経験して学んだことは色々ありますが、その中でも、自分の力で物事をなすとげるといえるのは、僕にとって大変な事になったことだと思っています。生徒会総務は全てを自分の力でやっていました。自分一人ではないにしても自分達で物事をつくりあげるのはとても大変なことでした。その経験は、将来必ず役に立つことだと思っています。この半年間で学んだことは一生わすれずにこれからの人生にいかしていきたいと思っています。

大好きな先輩方のように

書記 河元美佳

私は、中学一年生の10月から一年間、生徒会の書記として仕事をしてきました。生徒会の仕事は、らかなものではありませんでしたが、とても楽しくできました。それは、きっと先輩方のおかげだと思います。私のミスもおこらずかばってくれる。とても明るい生徒会での先輩達、私は、そんな先輩が大好きで、あこがれています。そんな先輩に近づけるように、これからもがんばろうと思います。

生徒会での一年間

会計 金沢秀司

ばくが生徒会の仕事を一年間を通し思ったことは、とてもたいへんだったけど、楽しかったということです。選挙から始まり生徒総会や文化祭など、たくさんの行事がありました。その度、おそくまで残って、ああでもない、こうでもない話合いをしてその行事が終わってほっとする間もなく、すぐ次の行事があるとといったように本当にたいへんでした。でも笑い合いながらできたので、けっこう楽しかったです。新総務の皆さん、これからがんばって下さい。

総務としての一年間

会計 川股礼奈

生徒会総務としての一年間は、あっという間に過ぎてしまいました。私の仕事は会計で目立った仕事はあまりなく、かなりじみですがそれなりに楽しく、多くのことを学びました。

私が総務にいる間に何か一つでも新しいことをやりたかった。そして、生徒と生徒会総務の結びつきの強い五稜中にしたかった。今さら過去のことを後悔してもしかたありません。

新総務に皆さん、これからのがんばってください。

今までお世話になった先生・生徒の皆さんがとうございまして。



平成
5年度

生徒会一年の足跡

一年間というと、長く感じてしまいましたが、すごしていくと一年間とは、あっという間です。この一年間みなさんは、どのようにすごし、どう成長したでしょうか。

成長していく中で、みなさんの思い出のころ、生徒会行事。もう一度ここで振り返ってみることにしましょう。

四月

入学式・第一期始業式

緊張しながら入学式を向かえた新入生達。そして、一つ大人になった在校生が、きれいに花を咲かせた桜の木の下をとり、新たな第一歩を踏み出した日でした。

新入生歓迎会

始めて全校生徒が顔あわせ、いつも、緊張した顔の新入生達に始めて笑顔がみえました。

各専門委員会スタート

どの委員会でも熱心にとりくんでいます。これからの活動が期待されます。



入学式



新入生歓迎会

五月

修学旅行

中学校生活の中で大きな行事の一つです。みなさんの心の中には、かぞえきれないほどの思い出ができたでしょう。

生徒総会

生徒会役員がいちがんとなくなつてがんばっていました。
時々、笑いがもれ楽しくできました。

六月

第三十三回校内体育大会

みなさん、各競技に一生懸命がんばり、応援にも熱が入り、
すばらしい体育大会でした。

校外清掃

生徒がいちがんとなくなつて、積極的にボランティア活動に協力
していました。



校外清掃（亀田川）



校内体育大会

中体連陸上競技大会壮行式・応援

応援団の気合いに、選ばれた選手は、おどろいてしまった
かもしれません。

中体連陸上競技大会

短い期間の練習でしたが、みなさん、力を出しきり、戦った
大会でした。

七月

中体連総合大会壮行式・応援

選手は、気合を入れなおして、大会に向けての闘志が最高
にたっていました。

中体連総合大会

どの部もこの日のために、一生懸命練習してきました。

選手のみなさんが力を出しきり、最後まで一人一人がんばり
ました。

第一学期終業式

楽しみにしていた夏休み、みなさんはどうすごしましたか。

八月

二期始業式

夏休みにけじめをつけみなさん気持ちをひきしめ、新たな
気持ちでスタートしました。

文化祭実行委員会

生徒代表が、それぞれ文化祭を成功させようと、しんけん
に話し合っていました。

九月

中体連水泳大会

選手のみなさんががんばってくれたおかげで、みなさんそ
れぞれ良い成績をおさめました。

校内弁論大会

弁論のみなさんは、自分の気持ちを生徒のみなさんに伝え
られたのではないだろうか。

ボランティア研究大会

二年生が中心となってボランティア活動の大切さをみなさ
んにうたった、研究大会でした。

第三十三回文化祭

今年は、いつもより少し早めにおこなわれ、準備期間も、
短かったのですが、みなさんの努力のおかげで大成功でした。

十月

校外清掃

五稜中周辺の地域のゴミをみんなで一生懸命ひろっていた
ので、地域の方々にも大変よろこばれたことと思います。

生徒会役員選挙・立会演説会

新しく当選した皆さんおめでとうございます。これからは
自分のやりたいことを積極的に発表し、活動してください。

生徒会役員認証式

旧総務の皆さん、本当に御苦労様でした。新しく決まった
新総務の皆さんは、今後の活動に向けてがんばってください。

十一月

生徒会ブロック会議

これからの学校生活をよりよいものにしようと、生徒会代
表が他校と活発的に話し合いました。



立会演説会



文化祭

十二月

生徒会誌編集委員会発足

編集委員会できまった内容などが、みなさんに伝えられました。

第二学期終業式

最も長かった二学期、みなさんのまちにまった冬休みです。

一月

第三学期始業式

一年で一番みじかい学期のスタート、短い期間の中でみなさんは、どのように、成長していったでしょう。

三月

卒業式

三年生は五稜中とお別れ。そして新たな旅立ち。

三年生は、中学校の三年間をふりかえり、涙がこぼれてしまふ最高の思い出の日になったことでしょう。

修了式

一年間もおわり、みなさんの新たなスタートがまっています。みなさんは、どんな一年間となったでしょうか。

おわりに……

今年もさまざまな行事がありました。

その中で、私たちは色々経験をしました。

この経験をもとに、来年もさらなる一步を踏み出していきたいと思います。

今年の生徒会のテーマは、

“TRY OUR BEST”

でした。

来年も、ベストを尽くしていきたいでしょう。



週 番 活 動



代 議 員 会

専門委員会

～活動報告



代議員とは

代議員会

代議員の仕事には文化祭の実行委員としての仕事や、校外清掃などの奉仕活動、そして挨拶などがあります。

実行委員会では、よりよい文化祭にするためにいろいろな案を練ったり、その他学年館などの仕事がありました。

また、挨拶運動では五稜三訓の一つ「にっこり挨拶明るい一日」を生徒達の間にもっと身近に感じられるようにと、毎日先生方や代議員が交代で玄関に立ち挨拶運動を続けてきました。中には無言で私達の前を通り過ぎて行く人もいますが「おはよう」から始まる一日はとても気持ちの良いものです。五稜三訓をもっと浸透させるためにも、よい校風を築きあげるためにも、その第一の手段として、これからも挨拶運動を続けていくべきだと思います。

代議員という仕事が大変ということ、みんなさけてしまいがちですが、やってみると案外楽しくとてもやりがいのある仕事です。やってみる価値は十分にあります。

(山名 梨絵 記)

五稜中に学習委員会あり!!

学習委員会

毎日の学校生活の中で、学習委員会は比較的身近な存在だと思います。朝は、朝自習に始まり、帰りは教科連絡に終わる学習委員の仕事。単純な作業の陰で、一人一人の委員達は、朝自習を作るために放課後遅くまで残ったり、休み時間を削って先生を探して走りまわったりと涙ぐましい(?)努力をしているのです。テスト予想問題だって、テスト前、一刻もおかしい時に、一生懸命作ったり、放課後残って印刷したりと、人の三倍ぐらいの努力をしているのです。

こうやって見ると、けっこう大変な委員会だと思われそうですが、それだけやりがいのある委員会でもあります。来年度の委員会に入るうか、と迷っている人、ぜひ学習委員会に入ってみてください。学習委員会に入って、教科連絡をやれば、教科の先生とも仲良くなれる特典(?)もつきます。先生方への印象も良くなるし、もしかしたら、成績も上がるかも。がんばってみて下さい。

五稜に学習委員会あり!

(稲岡 優子 記)

二つの顔を持つ

生活委員

生活委員会

生活委員は二つの顔を持っています。

一つは、文化祭の時の顔です。

文化祭で生活委員は、食堂の手伝いをします。

頭に三角巾を付けエプロンを掛けます。

男子にとっては、とても、はずかしい物です。

しかし、だんだん慣れてくると楽しくなってきました。

その時の笑顔それと、朝、週番で、生徒を迎える時の笑顔、笑顔が二つの顔です。

二つ目の顔は、悪を許さぬ正義の顔です。遅刻、チャイム席、服製、頭髮、カバンの

違反、不要物など校則を守らない者へ、注意する時の顔です。

今年是一年生が、積極的に働いてくれて助かりました。

来年は、二つの顔を使いわけ、頭の良い三年生、しっかり者の二年生、それに新しい一年生、みんなで協力して、すばらしい五稜中学校にして下さい。

(松村 康仁 記)

「保体委員を終えて」

保体委員会

保体委員会の仕事は「天国」と「地獄」のようでした。かなり大げさですが、前期は体育大会や文化祭そして球技大会などがありわりと忙がしかったです。しかし、後期はこれといって行事もなくただ時が過ぎて行きました。ぼくはこれに目を付けて2年の後期に保体委員になり、そのまま三年も保体委員になりました。その上委員長にもなっていました。前期は初めにも書いたとおり行事もありそれに委員長の仕事もあつてきつい時もありそれれどやっているうちに、その行事に自分がちゃんと参加しているんだという気持ちになり、時には注意されたり怒られたりしたけれど終えた時は充実感で一杯でした。

保体委員の仕事は他に教科連絡や病人の世話、チリ紙ハンカチ調べ、かぜ調べなどがあります。かぜ調べは冬毎日行うのでめんどくさかったです。

在校生のみなさんには中体連、もちろん勉強も一生懸命がんばって「五稜」をよりよいすばらしい学校にしてほしいと思います。

(魚住 章豊 記)

給食委員の仕事

給食委員会

給食委員、それは実際になってみて初めて仕事の大変さがわかる委員だと思います。

まず給食委員の仕事は、白衣の点検から始まり、当番の手伝い、食後の台ふき、など短時間のあいだにそれだけの仕事があるのです。こう書けば

「めんどろだ」と思う人がいるかもしれませんが、その短時間だけ仕事をすれば、後にはほとんど仕事がないといってよい程なのです。最初には大変と書いたり、後には仕事が多くなつてしまふと書いたり、よくわからない文になつてしまふかもしれませんが、最後に一言言えるとすれば、短時間の間にやる仕事はすごく大変でめんどろさいが、その後はやる事がないので楽ができる、それがこの給食委員だ！ということだと思えます。

(武内 一城 記)

後輩達に言いたい事

整美委員会

僕は、今まで委員に数回なったことはあったが、委員長になったのは初めてであった。仕事はやはりたいへんだったが、慣れてくれば楽なことだった。

校外清掃。たくさんさんの空き缶、おかしの袋や傘の骨などわけのわからない物など入った重たいゴミ袋を引きずって帰った時、クラスの数人が手伝ってくれたことがあった。

花壇づくり。土を掘る時も、数日に一回水をあげるのも、やはり友達が手伝ってくれた。そのおかげで、きれいな花がいつも咲いていた。ほかにまだまだ書きたい事がある。しかし、どれもクラスの人や友達に助けてもらったおかげで、達成したものである。

僕は今、言いたい事が一つある。みんなはもうわかっていると思うが、「みんなで協力すれば、どんな大変な事もこなすことができる。」ということである。「当り前だ。」と思うはずだが、これが、実際にできていないクラスがあるらしい。僕はそんな事はないと思う。そう思いたい。とにかく、これからもみんなにはがんばってほしい。(橘 秀樹 記)

文化委員をやってみて

文化委員会

私は三年生の前期、生まれて初めて文化委員になり、いきなり委員長にされてしまった。最初私は、委員長なんて大役を引き受けてしまっていたのだろうか？そう思った。でも文化委員は文化祭以外あまり忙しくないから思っていた。たしかに文化祭までの間はあまり仕事なかった。あるといえば文化祭実行委員会が数回あるだけだった。でも8月になり文化祭が近づくとつれだんだん忙しくなってきた。ポスターコンクールや壁新聞、合唱コンクールなど裏でやる仕事ばかりだった。こうしてみんなから見ると文化委員はけっこうひまなんだなと思われがちだが文化祭が近づくとけっこう忙しくなる時がある。

だから文化委員と言う仕事はひまそうに見えて、けっこう忙しいのである。

三年になって初めてやった文化委員長は最初はいまうまいかなかったこともたくさんあったけど最終的にはうまいいったからよかった。これから文化委員になる人へ。これからがんばって文化委員の仕事をして下さい。

(藤山 かおり 記)

私にとっての図書委員

図書委員会

一年の前期後期、二年の後期、三年の前期と、私の委員生活は、全て図書委員にそいできました。

こんなにも、図書委員に好んで入ったのはなぜなのでしょう？自分にも、よくわからない事が、これを読んでいるあなたに聞いかけても、わからないですよ。

図書委員というのは、とにかく楽なものだったと思います。仕事も、ほとんどないし、読書会などの前以外は、委員会も平和に、すぐ終わるし、この点はうれしい限りでした。

委員に入ると、担当の先生がイヤだ、という事がよくありますが、私はさほど先生問題は気にならなかったし、この気楽さが、私が図書委員に好んで入った理由かもしれません、今思いました。

たいてい、おもしろいとも、おもしろくないとも言いようのない、ごくごく平凡な委員でしたが、私のこの中学生活に、得も損も与えなかったで、こは、図書委員に入って一応はよかったと、しておきたいと思います。

(佐藤 亜由美 記)

がんばった放送局

放送局

私たち放送局員はたった二人という少ない人数で、先輩方のいなくなった約一年間、がんばってきました。担当の吉田先生が急に「入院」というショッキングな出来事もありましたが、その間、代わりに担当してくださった高橋先生には、大変お世話になりました。

体育大会、文化祭で、私たちは大変な任務をまかせられました。そんな中で普段活動していたのはお昼だけだったのですが、放送室で給食は食べれるし話もはずみます（私たちのバラダイスでした）。曲や先生にたのまれたものを放送したりして、まちがってもそこは愛嬌！でがんばってきました。こんな私たちが優しく指導してくれた先生方、本当にありがとうございました。最後に私たちから一言：（安食）けっこうまちがいは多かったけど、なかなか楽しかったと思います。ぜひ、二年生も放送局員をやってみてね。

（藤田）いろいろミスしたりしましたが、いい思い出になりました！私からも、ぜひ、二年のみなさんにこの『放送局』に入ってもらいたいと思います！（藤田 瞳・安食 香 記）

応援団の危機一髪

応援団

「硬派一徹」今年の我が応援団にこの言葉があまりにも似合っていないのが率直の感想である。お山の大将がよいなあ。

まずは、練習にくる団員があまりにもすくなすぎることである。理由にはこうあった。一つめに一番多いのは「塾」だった。塾にいつているのが約半数。そしてもう二つめは単純にさぼりである。このへんがまず硬派一徹からかけはなれていた。さらにつけくわえると応援団の命ともいえる「声」。声がでない！声なしでは応援団はただのデクノボー。

たったこれだけあげても最悪の状態がわかると思う。しかし悪いことだけでもなかったのである。二年生に硬派といっているほどの人物が数多くいたのである。（このばくもそうだが）この人たちのおかげで、応援のやりがいがあった。しかし来年が心配だ。しっかりしたまとめ役の人がいなければ応援団は五稜中からなくなってしまうのではないだろうか。

後輩たちよ あとを頼む
練習をまじめにやるように。

（副団長 田村 徹 記）



卒業生へ“贈る言葉”



～三年生関係の先生・職員室から～



「才能って？」

A組担任 信田博之先生

人はよく、才能があるとか、才能がないとか言います。はたして才能とは、何者なのでしょう。人には、可能性があり、得意不得意があります。日々の生活の中で、決断をすべき時、窮地に追い込まれた時、また、平凡なくらいに変化のない時、それぞれの時に、己を磨き続ける必要があります。

瞬間の派手な格好の良さより、地味でも続けることが、私は好きです。私の思う一番の才能は、「努力することを続ける才能」です。自分の好きなことを、ひとつ、ふたつでも長い人生の中、何か続けて下さい。そして、ほんの少しでも社会に貢献して下さい。



母親に心より感謝の一言を

B組担任 村井貞夫先生

三年生のみなさん、ご卒業本当におめでとう。九年間の義務教育を終え、今後は自分の意志で人生という道を一步一步進まなければなりません。幸多い事を心より祈っております。さて、卒業を期に考えてみなければならぬことがあります。それは、これまで心身ともに健康に慈しみ、育んでくれた両親、特に母親に感謝をしてほしいものです。「ブーレや、足が冷たくないかい？」とか、「頭が痛いじゃないかい、ブーレや？」と聞いたり、「そんなにしゃべらせてはいけませんわ。のどを悪くしますよ」と言ったりして、みなさんを何くれとお世話してくれました。卒業を期に感謝の一言を……。



「三つの心」

C組担任 笹谷 巖 先生

C組39名の諸君、卒業おめでとう。心から拍手をおくります。君達とは、わずか一年の生活でしたが、何故かもっと以前より一緒に生活していたように思えてなりません。それは、39名全員に親しみを感じ、遠慮なく、注意・指導したことに対し、きちんと答えてくれたためだと思っています。沢山の出来事をのり越える度に、程度の差はあれ、人間として、とても大切な、謙虚な心、協力して努力する心、他人を思いやる心、を確実に身につけていった学級でした。卒業し新しい環境の中にあっても、この三つの心を忘れることなく前進してほしいものと強く願うものです。



“君の旋律を奏でて”

D組担任 田村 順子 先生

卒業おめでとう!!
成長いちじるしい中学生時代を一步一步踏みしめ、ここに巣立ちのときを迎えた君たちは、晴々と胸を張り、これからの未来に心弾ませているに違いない。あどけない笑顔で瞳を輝かせていた一年生、少々大人びてみあった二年生時代、そして今。この三年間の中で、大きく飛躍できた場面がいくつか必ずあったはず。それを通奏低音の如く奏で、本物の人間として成長するよう旋律を作り続けていてほしい。そしてどこかでその感性豊かな、心温まる曲を聞かせてほしい……きっとどこかで……楽しみにしています。



「新鮮な心をいつまでも」

国語担当 井筒 泰三 先生

四月から三年生はそれぞれが新しい道を進むことになりました。自分で選んだ道ですから、すでに目標も明らかになっていることでしょう。あとはその目標に向かって前向きに積極的にたゆみなく進むことができるかということです。

世の中は時々刻々変化していくものです。いつも新鮮な心で向かっていかなければ、情性に流されて大切なことを見落としてしまいます。また、チャレンジ精神で変化に対応していかなければ、目標につながる新しい道を開いていくことが難しくなります。いつまでも新鮮な心とチャレンジ精神を持ち続けてください。



卒業生へ

英語担当 高橋 一也 先生

モンテニニエはエッセー(随想録)の中で、馬を誉めるのは、それが遅く、速いからであり、その馬具が立派だからではない。弾大を誉めるのは、足の速さゆえで、首輪のゆえではない。なぜわれわれはこれと同じように、人間をもその固有の価値によって評価しないのか。人間を判断するには、人間そのものによって判断すべきで、富や名誉や装いによって判断すべきでない。人間を評価するには健康な身体を持ち、美しい魂をもっているかが大事なのである。と言っている。卒業生の皆さん、どの高校に進んだか、どんな職業についたかによって、その生徒(人間)を評価しないで下さい。



卒業おめでとう

技術担当 杉 山 春 吉 先生

いつか・どこかで……

早いもので五稜中学校に入学して三年、この校舎に多くの思い出を残して新たな旅立ちの日を迎えることになり、新たな旅立ちと新しい環境の中で、新しい友人や新しい希望と夢を抱きながらの旅立ちになることでしょう。振り返った過去に恥じないよう仰ぎみる未来に恥じないようがんばりなさい。

またいつの日かどこかで出会ったら笑顔で語り合える日を楽しみにしている……。



「思いやりのある心を大切に」

美術担当 吉 田 安 宏 先生

今年度は、新学期早々入院、十一月いっぱい休み、皆さんにも大変迷惑をかけ申し訳なく思っています。入院中は、病室の窓から見える五稜郭公園とその付近の自然の美しさ、春夏秋冬ごとに変化する色彩、それを見ることで病苦のため沈みがちな気持ちが慰められた二カ月間でした。そして、病院で働く看護婦さんたちの患者に對することは、態度、多忙の中でも誠心誠意、思いやりの心で接している姿に、目に見えるものと見えない違いはあっても、自然の美しさ以上に人間としての美しさを感じました。皆さんも今後、この人間としての心、思いやりのある心を忘れないで下さい。



ひとこと

家庭科担当 木 村 以久子 先生

卒業おめでとう。今思えば、あつという間の三年間ではなかったでしょうか。自分にとって、得たものは何でしたか？

明るく、素直で、くよくよしない。友達を大切にし、仲良くできる……これが皆の良かった点ではなかっただろうか。しかし、この短い三年間の中には、各々が本気で考え、判断しなければいけなかった帰路もあったはず。その時、真剣に考えられた人は、きっと充実した三年間だったに違いありません。「もっと自分を大切に」・「あきらめは、何の解決にもつながらない」切磋琢磨して、前向きにがんばって下さい。皆の事は忘れません。体を大切に。元気でね。



「やる気を持て!!」

保体担当 古 館 勉 先生

三年生女子とは今年一年の付き合いであった。「人は見かけによらぬもの」とはよく言ったものであるが、今年一年間でいろいろな発見をさせてもらった。「やればできる」、「あきらめが肝心」など、態度に関わる言葉も数多くあるが、君達には「やればできる」がふさわしいだろう。だが、「やればできる」からこそ「やる気」をもっと見せて欲しかったという気にもなる。人を見かけで判断するのは軽率だが、第一印象としての見かけの態度はとても大切なものだと思う。これからの人生「やる気」を見せてぶつかって欲しいと思う。何はともあれ「卒業おめでとう!!」



卒業生のみなさんへ

美術担当 亀谷 扶美子 先生

ご卒業おめでとうございます。

中学校での様々な思い出を胸に、それぞれの道を行き出されることと思います。いくつになっても、中学校時代の思い出は色あせることはありません。これからも友達を大切に、自分を大切に温かい気持ちを持って自分の目標にむかって進んで下さい。皆さんのこれからの飛躍を期待しています。



卒業おめでとう

社会担当 内木 竜 先生

今年の三年生とは、公民の授業を通して三クラスの生徒と接してきました。全体的な印象としては、元気がないという印象です。

さて、みなさんは「公民」という意味を考えたことがありますか。「参政権を持つ国民」という意味です。

やがて、成人し自ら選択し判断できる公民となるよう歩んで下さい。

最後に、この五稜中での思い出が、これから生きていく中で、心の支えの一つになっていくことでしょう。卒業おめでとう。



「自分で道を切り拓いて」

養護教諭 斉藤 直美 先生

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。今、9年間の義務教育を終え、それぞれの道へ旅立とうとしているみなさんは、夢と希望に満ちあふれていることでしょう。今までは義務教育という中なので、いろいろな部分でカバーしてくれたり、見守ってしてくれた人が周りにたくさんいましたが、これからは、自分自身で道を切り拓いて行かなければなりません。自分というものをしっかりと見つめ、そして後悔しないように、前向きな姿勢でゆっくと人生を歩んで行ってほしいものです。いつまでもお元気で。



事務担当 登坂紀子

努力、努力とよく言うけれど
努力って何だろう

楽しく人生を送れたら それでいい

がんばれ がんばれとよく言われるけれど

がんばるって何だろう

とにかく楽しく人生送れたら最高

それらは自分の心にあるかも 卒業おめでとう

~~~~~

## 事務担当 三上のり子

卒業おめでとうございます。

「継続は力なり」毎日の努力の積み重ねの上に豊かなみりがある  
のです。五稜中の思い出を胸に、力強く歩んで下さい。

~~~~~

用務担当 松本恭右

三年生の皆さん卒業おめでとう。三年は最初は長いように思いましたが、三年生になって見ると短いと思ったことでしょうが、今日
本国は大変苦しい時になっています。皆さんも自分の進む道をしっ
かりと決めて、信念と努力そして体力増進で五稜中の良いことと思
い出して頑張ってください。

用務担当 近江谷 千春

卒業おめでとうございます。

この三年間で学んだこと、経験したことをいつしか思い出としてな
つかしく思うことがあるでしょう。どんな時も、前向きにがんばっ
て大きく成長してほしいと思います。

~~~~~

## 給食担当 熊谷 トシ

ご卒業おめでとうございます。

皆さんもそれぞれの道を進んで良い人生を歩んで下さい。

たまには中学時代の給食の事を思い出して下さい。

おいしかった事もあったでしょうね。

~~~~~

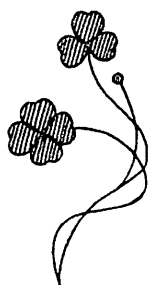
卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。

卒業しても、五稜中での思い出を胸に、これから

歩んで下さい。

私達は、応援しています。これからも。

教職員一同



- 24 -

卒業するみなさんへ

一年B組 榎森 育美

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

私達、一年生は、先輩達にいろいろなことを教えていただきました。入学当初、なにもかもが初めてで、とまどっている時に、やさしく先輩達が教えてくださいました。委員会活動や部活動、そして学校内全部のことに、一生懸命に活動していました。校内体育大会の時や、文化祭の時なども、遅くまで残って準備にとりかかっていたのも、先輩達でした。私達も見習わなければならないな、と思う場面も、たくさんありました。こんな三年生の先輩がいてくださったからこそ、私達がここまで成長することができました。本当にありがとうございました。

中学校を卒業すると、これからは自分で自分の道を切り拓いていかなければなりません。高校へ進学する人もいるし、さらにもっと上の大学を目指している人、就職する人など様々です。一度決めた道は、最後まであきらめないでがんばってほしいです。私達一年生は、中学校の生活はあと2年ありますが、三年生の先輩達が残っていた、すばらしい力を土台にして、よりよい中学校を作っていきたい、そう思っています。

とてもやさしい先輩、とても親切な先輩、時にはきびしい先輩……今、思い出すと、とてもいろいろなことがよみ返ってきます。三年生のみなさんも、この学校で学んだいろいろな力をふりしぼって、新しい世界へ進んでいてください。私達も応援しています。

本当に短い間でしたけれど、どうもありがとうございました。

あきらめないで、負けないで

二年D組 川股 礼奈

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

三年生の皆さんがいなくなると、学校は一気にさびしくなります。皆さんが今まで最高学年だったのに、来月から私たちが最高学年になるなんて、信じられません。と同時に、不安にもなります。皆さんは来月から高校生です。私たちよりも大きい不安を抱えているのではないのでしょうか。

3年間という短い期間の中で、嬉しいことや悲しいこと、後悔などがたくさんあると思います。そういうことを重ねることで、先輩方は、また一歩づつ“夢”に近づくんだと私は思います。

“夢”とひとくちにいても、すぐにはかなうわけではありません。全力で努力して下さい。がんばって下さい。逆境にも負けないで下さい。

「あきらめたら負け」という言葉があります。私も、そう思います。何事に対しても、です。あきらめてしまっっては、何もしないのと同じになってしまうような気がします。

自分自身の運命を握るカギは先輩がた自身なのです。自分しだいで、夢は大きくなります。反対に、小さくもなります。ですから、がんばって下さい。負けないで下さい。

最後になりましたが、この五稜中での3年間で忘れないうで下さい。

人とのふれあいを

三年A組 湊 康太

三年間慣れ親しんできたこの校舎からも、もう少しで卒業するときがきます。長かったような短かったような、何かよくわからないうちに三年間が過ぎてしまつてような気がします。

ばくはこの三年間、全般的に人を思いやるという気持ちが必要になつたように思います。

そこで在校生には、さまざまな場での多くの人とのふれあいを大切にしたいと思います。

多くの人とのふれあいを持つことによって自分と違つた意見を取り入れることができ、他人のことも理解できるようになり、自らの人間性を高めることができるでしょう。

また、他人を理解していくことによって、他人に自分というものを理解してもらっていくことにもつながるのではないのでしょうか。そうしてお互いをよく知ること、人と人の信頼関係ができ、友情も生まれるのではないかと思います。

中学校生活の中では、こういったことを経験できる場として部活動や委員会などたくさんあります。失敗を恐れず、これらのことに積極的に取り組むことができれば、きっと、これからの中学校生活も充実したものとなるでしょう。

在校生のみなさんこれからがんばってください。

今、こうして卒業を迎えるにあたって

三年D組 山川 加奈

今まで、卒業生を送る立場にいた私達も、今、こうして送られる立場にいます。思い起こせば、入学して間もない頃は、朝、教室に入ると同じ服を着ていた、中学校生活では当たり前のことが妙にこわく感じられて、友達を作ることが苦手だった私も友達が出来て、それがとても昨日のことの様に、短く感じられます。そして、貴重な体験、それは生徒会総務の一員になることが出来たことです。

私が日頃、お世話になっている恩師が言っていた言葉なのですが、『中学校というのは、いろいろ悩むことがあって、多感な時期で、だから、中学校時代の友達というのは、長く続く。』と語っていました。今までこの時の恩師の語りが強く心に残っています。これからの中学校生活では、中学校でしか学び得ないことを広い心で沢山吸収して欲しいと思います。これから歩んでいくには、避けて通れない苦難なことも起こると予想されます。どうかその時は、自分を見つめ直し、大いに前進して下さい。苦しみから逃れるだけが幸福ではありません。苦しみを乗り越えることができたなら、その時、自分自身が大きく変身できるのでは……と、私の経験からそう実感するので。誰もがそのようにして大人になっていくのではないでしょう。

中学校三年間は、未知なる未来を秘めた糧となるモノ、様々な生活の中から人間味あふれる心の持ち主になって欲しいと思います。

今まで出会った全ての人に感謝の意を表せれるように、有意義な中学校生活を送って下さい。

部 活 動

一年間の活動報告



振り返って

野 球 部

部活動を振り返ってみるとあっという間の一年間でした。

先輩たちが去ったあとの僕達は、練習もあまり真面目にやらず、いつも顧問の先生に怒られていました。そんな中で行われた新入戦では、一回戦で五回コールド負けという大敗をしてしまいました。しかしこの悔やしさがあったからこそ普段の練習の大切さを知ることができ、冬期間の辛いトレーニングも頑張れたのだと思う。その後、春からの練習試合ではミスが多く、なかなか勝てなかったチームも負けるたびにその時の悔やしさをバネに最後まであきらめずに頑張り続けた結果、一戦一戦苦しい戦いに勝ち中体連で優勝することができた。本当にいろいろなことがあった一年間だったが、みんなと共に野球ができたことを僕は何よりもうれしく思う。

今年のチームは全道大会出場という夢は果たせなかったが、一・二年生がレギュラーの半分以上を占めていたので来年こそはと期待している。あと一歩というところで逃した全道へのキップを、ひたむきな情熱と努力で勝ち取って欲しいと思う。

最後になりましたが古館先生・杉山先生、三年間熱心なご指導をしていただきありがとうございました。

(湊 康太 記)



目標を達成できなかった悔しさ

卓球部

僕達卓球部は、中体連函館市二連覇を目標に、毎日、顧問の高橋先生の下で練習に励んできました。しかし、僕は、精神面も弱いうえに、技術のなさ、そして主力とならなければならぬ三年生部員の少なさ（四名）という状態で、高橋先生に「今年のチームは最悪だ」と言われるほどでした。

中体連では、団体戦予選リーグで戸倉中、亀田中と共に四対一で下し、決勝トーナメントへ進出。決勝トーナメントでは、赤川中に三対〇、続く準決勝では港中に三対二で勝ち、決勝に進出しました。決勝では、大会前からマークしていた潮見中と対戦。勝つチャンス

は十二分にあったものの、精神面の弱さがでてしまったのか二対三で惜敗。目標であった二連覇を達成することはできませんでした。個人戦では蒲生君、棚上君が全道行きという成績を収めました。

後輩達には、僕達ができなかった函館市制覇、そして先輩達ができなかった全道制覇を目標にがんばってもらいたい。

そして、三年間指導して下さった高橋先生、井筒先生本当にありがとうございました。

（本庄 智志 記）

勝利への道

サッカー部

サッカー部は、ここ数年続いている、「初戦敗退」この記録をうち消すことを目標に、練習を続けてきました。

しかし、その目標を達することはできませんでした。

三年生最後の中体連、一回戦不戦勝で迎えた二回戦戸倉中、今考えても、あの時の、あの場面をはっきり思い出せます。なぜ勝てなかったのか。何度もそう思いました。最後のねばり、そして集中力、これらが欠けていたのかもしれない。

後輩たちには、このねばりと集中力を練習で培ってもらいたい。そして、悔いの残らない、思い出に残る試合をして欲しい。サッカーの楽しさを忘れずに頑張ってもらいたい。勝ったときの満足感をたくさん味わい、一人一人のプレイに自信をもって欲しいと思います。

最後に、三年間指導して下さった、萩野、大村両先生、大変お世話になりました。これからも、初戦突破、そして優勝の二文字を大きな目標にして頑張ってください。

今まで、本当にありがとうございました。

（福井 拓也 記）



勝利に向かって

バスケットボール部（男子）

僕達男子バスケット部は、先輩方が引退された後、二年生五名、一年生十数名というとても苦いスタートをきった。

バスケットというスポーツは、一度に五人づつ試合に出るスポーツだから、必ずといってよい程一年生を試合につかっていた。さらに、スポーツ選手最大の敵ともいえる「ケガ」にまで悩まされ続けた僕達の新人戦、冬季リーグという大会の結果はさんざんなものに終わった。そんな状態の続く中で僕達の最終目標、中体連一回戦突破に向けての猛練習は行われた。



しかし中体連一回戦目の相手、湯川中との試合では前半につけられた十六点差をわずかに縮めるというだけの結果に終わってしまった。以上僕達の残した成績はかつてないぐらいはじめなものに終わってしまった。今、後輩達に望む事ができるのなら、君達には僕達以上に部員一丸となり中体連一回戦突破をなしとげてほしい。

最後になりましたが、こんな僕達を三年間という長い間、熱心にご指導してくださった信田先生、心から感謝しております。

（武内 一城 記）

「走り続けて」

バスケットボール部（女子）

私達のバスケット生活は、一本のダッシュから始まりました。基礎を中心としたバスケット部の練習は決して楽なものではなく、早朝練習を放課後の練習のくり返しでした。

中体連が近づくにつれて、チーム一人一人の目の色が変わってくるのがわかりました。みんな自分なりに努力し、これがチームワークというものをつくったと思います。

しかし、中体連はわずかな点差で敗れてしまいました。試合終了のピストルの音とともに今までの苦しい練習が一度に頭を駆けめぐり、体中から涙があふれ出したようでした。

でも、今考えたとあの時の試合は、私達にとっても大切な事を教えてくれたと思います。苦しい戦いの中で、誰一人歩こうとせず、全員が最後まで「ぜったいにあきらめない」という気持ちで走り続けました。また、この試合で大切な仲間を得ることもできました。そして後輩達へ。どんなに苦しくても決してあきらめず、最後まで努力し続けるということを忘れないでください。

最後に、お世話になった信田先生、岩崎先生、本当にありがとうございました。心から感謝しています。

（西口 しのぶ 記）



夢を信じて…

テニス部（男子）

ぼく達の目標「一回戦突破」。しかしそれは決して容易なものではなかった。今季初戦となる春期大会では良い結果を残せず、目標は中体連へともちこされた。もう負けたくないという気持ちが必死で練習した。そのかいがあって目標である一回戦突破した。ぼく達は、初めて試合に勝ったのだ。ここまできたらもうあたってくださるの気持ちで二回戦、優勝候補の的中戦。あたってくださるのつもりで力いっぱい入れ打っていた。しかしボールがどうしても高くほとんどがバックアウトだった。しかし初めの一点は相手のミスでこちらの点数だった。「これならいける」そう思った瞬間には逆点され、ボロ負けだった。このくやしさをバネにして望んだ新人戦。やはりこの時も、一回戦は勝ったものの、二回戦ではボロ負けではなかったが力の違いを思い知らされた。

この一年は目標が達成できたのでまずはよかったと思う。しかし練習がまだ不真面目な点がありそこは来年直していかなければならないと思っている。三年になっても、メンバーが変わらないのはとても良かった。「打倒的場」ぼく達の夢は今始まる。夢を信じて…



（山崎 記）

「悔しさを乗り越えて…」

テニス部（女子）

私達は、共に活動した先輩達の卒業後、「団体戦三位入賞」という目標を残してもらい、その目標を達成するために朝早くから練習をし放課後も、一生懸命活動をしました。

試合に慣れるように他校との練習試合を多くしてもらったというような努力もしてきました。しかし、団体戦は、予選リーグで惜しくも敗退してしまい、個人戦も、部員一人、一人が独自の力を発揮し試合に挑みましたが、不名誉な成績で終わってしまいました。

私達にとって最後の中体連の負け時の悔やしきは、あまりにも大きすぎました。しかし、まだ「チャンス」を持っている後輩達には、私達と同じ思いはしてほしくありません。それには日頃の活動を「これで良い」という楽を選ぶのではなく「こうしよう」という気持ちを持ち、それを確実にやりとげることが毎日続けてほしいと思います。そして、私達の果たせなかった目標「団体戦三位入賞」を次ぎは、果たせるように頑張ってください。私達をご指導してくださった藤森先生、斉藤先生、ありがとうございます。



（三浦 ルミ子 記）

離れていても……

バレー部

ピーッ、試合終了のホイッスル。あの日からどだけだったのだろう。ただ、ひたすらボールを追って、泣いて、笑ったあの頃……。私たちは、決して強いチームではなかった。人数もぎりぎり、他の部と比べると、なにかと問題も多く、何度が顧問の先生やキャプテンを困らせたこともあった。こんなチームが今まで続けてこれたのも、目に見えない「きずな」のおかげだと思う。それは、とても大切なことで、バレーボールの技術よりなにより必要なものです。私は、本当に信じあえる仲間と、同じ目標に向かって歩けたことを、ほこりに思う。これから、6人それぞれ別の道にすすむでしょう。しかし、離れていても私たちの「きずな」は、今までの思い出と共に永遠に一人一人の心にきざみこまれることと思います。

そして、3年という間には、顧問の先生が何度か、変わったけれど、その先生方に、言葉にはできないくらい「ありがとう」というかけがえのない言葉をバレー部より送りたいと思います。

最後に、後輩に、この部に入ってきた。と思える部をつくってください。

(バレー部一同 記)

冬眠中ですが……

演劇部

体育館へむかう途中の『多目的教室』は、文化祭前になると、人間とは思えないほどの大声がこだまする。そこには……元気がいいだけ

がとりえの演劇部員達がいる。練習もしないでただひたすらしゃべりまくり、文化祭へのプレッシャーさえもはねかえし、ただ楽しく時間を過ごしている。ちゃんと台本も読まず練習していても「あッゴメン！」ですまそうとするやつらのかたまりが演劇部だと言っても過言ではない。

……と欠点だけが目立ってしまった我が部だが、数少ない長所もある。演劇というものに対する考え方、失敗しても笑って許してくれる心の広さ……。そして部員は少ないながらも築きつづめるチームワーク。これだけを武器に演劇部は今度の文化祭まで冬眠し、パワーを十分にたくわえておくことであらう。

だが1つだけ……部長として部員みんなに言いたい。「みんなー！文化祭前だけは、練習がんばろうよ！」来年も多分……いやきっと！演劇部はがんばるであらう……。 (少し自信ないけど……)

(文責 長内 記)



今振り返ってみて

吹奏楽部

わたしたち吹奏楽部員は、今年たくさんさんの活動をしてきて、たくさんさんのことを学んだと思います。吹奏楽祭、吹奏楽コンクール、文化祭、五稜郭養護学校での交流。今振り返ると、こんなにたくさんさんの事をこなせてくれたなんてと、びっくりしてしまいます。というのも成田先生がくるまでは、吉田先生がお休みで指導者がいなく技術的なものを身につけることや基礎をかためるのも満足にできなかったからです。コンクールの時はたった2ヶ月で仕上げなければならなかったりとすごく大変でした。そして私達部員が一番楽しみにしていた文化祭。例年通り一年生のおどりもまじえて夜遅くまでの練習

も楽しいものでした。私達三年生はもうこの仲間と同じ音符をおってきれいなハーモニーをつくることではないと思います。でもみんなでつくりあげた曲一つ一つの感動をそしてこれまでも一緒に頑張ってきた仲間の事はいつまでも忘れないでほしいと思います。後輩のみんなは日々の練習がどれだけ大切かを考え直しているいろいろなことを学んでいって下さい。

最後に私達を指導してくださった吉田美奈子先生、成田牧先生今まで本当にありがとうございました。

(加藤美紀子 記)

合唱部

雨ニモマケズ 風ニモマケズ

夏ノアツサニモストーブノアツサ

東ニウタガスキナヒトガイレバ

ニモマケズ
イッテ、合唱部ニハイラナイ?

トサソイ

西ニ集会アレバヨコデ校歌ヲウタイ

南ニ合唱コンクールガアレバ

イッテシキヲトリ

北ニNHKコンクールガアレバ

出場シテ、ショウヲトッテカエリ

センパイモコウハイモナカヨク

雑唱部トヨバレテモ センセイニオコラレテモ ケシテメゲズ

マイニチノレンシユヲカカサズ

“ハイッテヨカッタ” トイワレルヨウナ合唱部デアッテホシイ。

(市島佑起子記)



後輩達に……

コンピューター部

今年でやっと二年めを迎えた、わがコンピューター部。今年は去年に比べて、何故か部員数が二倍近くに増えてしまい、部長としてもちよつとびっくりしてしまいました。人数が多いので、週一回、決められた時間内の一人がコンピューターを操る時間はとても短く、部室内はいっそうさわがしくなりました。

しかし、その中でも今年の最大イベントとして、文化祭での部室の開放がありました。活動日以外にも部活が行われましたが、みんなまじめに取り組んでいて、いい作品が残せたと思います。文化祭の二日間は、沢山の人が部室に顔を

出してくれたので嬉しかったです。私達三年生は、二年間しかこの部に所属できなかったけど、いろいろなコトを学びました。後輩達には、私達が知らないコトも教わって、沢山覚えてほしいと思います。

後輩にとって私は目標とされるような先輩・部長ではなかったけど、私にとってはとてもいい経験をさせてもらいました。

最後に、指導してくださった中谷先生ありがとうございます。後輩のみなさん、これからも頑張ってください。

(船山 陽子 記)



三年間の活動を終えて

写真部

初めて入部した時、どんなものなのか、と思い、二年目に突入すると副部長で頑張る、要領も覚え、後輩もでき、順序をたきこむ、しかし文化祭が近くなり、何かといそがしくなると、肝心の部員が出席してくれない。

三年目は部長で頑張る、部員は六名、早速活動に入る。出席部員は四名、次第に二人となる。部員の中にも新聞配達が本職となっていました。そうなる来年の期待の星、一年生に、要領を教え、現像全行程をこなせるようにさせた。文化祭も終わり、写真部活動に終止符、そのつかの間、悲報が耳に入る。一年生と、二年一人がやめた。そして残りの一人も辞めたいとこぼしているらしい。

これが自分の三年間の活動です。これには悪いことより書いていませんが決してこのことについてどうこうではありません。三年間の間、こんな自分を世話してくれた顧問の松山先生、どうもありがとうございました。最後に、この三年間自分にとって、これらのことが、一番良い経験になりました。

(山崎 記)



めざせ全国

水泳

私達、黒田 史穂と熊谷 翼は、いろいろな大会に出場しましたが、その一つで、全道中学水泳競技大会がありました。結果はまずまず良かったのですが、全国大会に出ることはできませんでした。来年は、2人そろって全国大会に出場できるように、今からこつこつと練習にはげんでいます。



大会で良い成績を残せるように、毎日のトレーニングを積み重ねて目標を果たせるようにしたいです。

私達2人は、これからも、今まで以上にがんばっていききたいと思います。

(熊谷・黒田・記)

一人

剣道

剣道は、部活動ではありませんが、個人戦に出場させてもらいました。最後の中体連なので、少しでも良い成績を残せるように頑張りましたが、無念にも一回戦敗退に終わってしまいました。



三年間を通じて、最後の中体連が一人というのは少し心細かったけれど、いろんな人に会えてとてもいい思い出になりました。

来年の新生に剣道を、やっている人がいたら五稜中と自分自身のために中体連に出場し、是非、がんばって欲しいと思います。

(石黒一葉記)

緊張の中体連

体操

7月、函館大妻高校で私にとっては、初めての中体連がありました。この大会は、一部と二部に分かれていて、二部は中学校の部活の人が出場して、一部は私が入っているクラブの人達です。一部の人数は1年生4人、2年生2人、3年生3人の9人で、種目は、床、平均台、跳馬、平行棒の4種目です。



大妻高校はいつも練習してるところで器具には慣れたので、緊張はいつもの大会の半分でした。

担任の木村先生が応援に来てくれたので、うれしかったです。

(高橋美由紀)

平成5年度卒業生

思い出をこのページに残して



紙風船

落ちて来たら

今度は

もっと高く

もっともっと高く

何度でも

打上げよう

美しい

願いごとのように

(黒田三郎『もっとと高く』より)



稲岡 中村 藤田 若山 山名 白木 堀
鳥谷部 伊藤 石田 三浦 叶野

鍋島 赤山 齊藤 大野 角野 村本 竹 福原
佐藤 白石 松本 服部 湊 棚上

西郷 岩島 本田 砂原 石黒 安保 校長先生 信田先生
石川 名越 岩間 加藤 小島 今泉

3-A

個性の下に集まった
個性たち

信田級

3-Aは、ものつすぐく個性的なクラス。一人一人の個性がハッキリすぎて、先生方もまとめるのに苦労するらしい。休み時間はうるさいし、授業中はお通夜のように運動だけはお手のもの。その証拠が教室に輝く5枚の賞状。ただ、団体競技よりも個人競技の成績が良いのは、個性的だからか……。

くどいようだけとにかく個性的なのが3-A。その3-Aを一年間まとめあげたスゴイ人が、これまた個性的な信田先生である。高校進学などについてもくわしく、とても熱心に生徒達に指導してくれる。

次に、先生から見た3-Aを語ってもらいましょう。先生、お願いします。

「この一年間、本当に、いろいろな事がありました。良い思い出も、少し苦い出来事も。それでも、秋の気配が感じられる頃には、自分の学級らしい雰囲気が出てきたと思います。一人ひとりの、心が安らぐ、クラスであつたら、良かったと思う。担任Nです。」

もう卒業。これからの再会に願いをこめて。「それじゃあ、またいつかあおうね!!」

(山名 梨絵・稲岡 優子記)

卒業生一人一言

3-A 編

ぼくは、クラスで一番背がひくい
楽しかった

この頬に一つこぼれ落ちた涙の跡
悲しげな事を重ねてきた。

士別れて三日、刮目してあい待す
オレは将来のボクサーだ!!

バンドラのはこの中で……

①「ああああああーあつ？」

②もうすぐにアルシンドに

③なっちゃうよ。」

万里を駆ける大ほうのように……

さらば青春の光

限りない夢を持ちつづけていく

あの頃にもどりたい

果てしない、夢へ……

互いは互いを分りあえるだろうか

限りない挑戦

気絶するほど愛してほしい……

知らないうちに大人になってた

石川 大介

石田 明弘

伊藤 嘉邦

今泉 敦志

岩間 政和

加藤 俊哉

叶野 真

小島 大輔

佐藤 康三

白石 純朗

棚上 大輔

鳥谷部克章

名越 宏演

股部 純一

松本 清二

三浦 貴士

湊 康太

赤山 りえ

安保ひろみ

この世で一番自由な僕さ愛
優しくて温かい貴方が大好き♡

素敵な過去(おもいで) 忘れない

何年たっても変わらぬ気持ちで……

一番の笑顔を見せたい……

また遊びたい

優しくさだけじゃ二人を包めない

いたずら大好きノやめられない

ロマンティック

内緒の夜 内緒のキス 内緒の恋

トケズニイタ ダケドスベテハ

明日を呼ぶうたをうたおう

必要とされて会いたい

一秒でも多くあなたのそばに

全てのハッピーエンドは前途多難

想いは必ずとどくのでしょうか

チヨリスタの星へ帰りたい

この心をいやすのは君の笑顔だけ

XXXXXXXX無くして我命あらず!!

石黒 一葉

稲岡 優子

岩島 知弘

大野るり子

角野麻紀子

西郷 仁美

齊藤真由美

白木 好美

砂原 広美

竹 まゆみ

中村菜美子

鍋島 麻里

福原美知子

藤田 瞳

堀 葉子

村本裕明子

山名 梨絵

若山 愛

本田 都子





大倉	佐々木	金澤	菅原	松村	海宝	西口	町屋	下国	中村	田口	笠原	大林	三浦
	寺内	武内	山本	鈴木(智)	金野	佐藤	長谷川	入江	竹	今津	木村	四十物谷	吉田
藤田	杉野	太田	伊藤	岡	鈴木(誠)	教頭先生	小山	佐々木	嵐	清水	池内	佐藤(亜)	佐藤(友)

3-B

いつも、
ナイスデイ

村井 組

三年になる時クラスがえがあった。最初は
 どうなるのかと不安があったが、クラスが決
 まって少しホッとした。それから一週間して、
 ものすごくホッとした。それは、思ったより
 おちゃらけた人が多かったからだ。そしてみ
 んな仲良くなっていった。

三年B組は、金八先生でよく知られているクラスである。始業式の日、平成の金八先生が発表になった。それが我らの村井貞夫先生なのである。先生は、とても厳しい先生であり、そして優しい先生でもある。

こうして三ーBが誕生した。自分で言うのも変だが、とてもいいクラスである。例えば合唱コンクールでは、みんな一所懸命に一生懸命という感じで取り組んだ。その結果、銀賞をおさめた。他にも球技大会、体育大会でも好成績を残している。

時間というのは、本当に速いと思う。三年間というのが、もう終わってしまう。そして卒業する。みんな違う高校に行き、違う会社に行く。でもこの三年間の思い出は忘れないと思う。最後に三年間お世話になった先生方ありがとうございました。（金澤 記）

(金澤記)

卒業生一人一言

31B 編

何処に行けば苦しみを愛せる……

人事を尽くして天命を待つ！

首尾一貫

自分将来に向かってダッシュ!!

・・・・・・・・・・・・・・・・

ドンドンガバチョドンガバチョ

ご来店ありがとうございます。

一日一日を大切に

思い出全てを胸に刻ぎみ込もう

人生とは自分を見つめる旅である

天上天下唯我独尊

瞬間のかけらを追いかけていたい

私の人生いとお 悔いなし

ただ今は すべてが想い出……

終わらない夢だけを追いかけたい

人生とはカケゴトである

飛べないトドは、ただのトド！

人はみな優しさを求めて旅に出る

またいつか逢おうね♡

時は、もう後戻りできない……

伊藤 公徳

大倉 一生

太田 陽一

岡 哲成

海宝 利紀

金澤 秀司

金野 幹大

佐々木英嗣

佐藤 大輔

菅原 祐紀

杉野 竜也

鈴木 智博

鈴木 誠

武内 一城

寺島 俊介

藤田 清人

松村 康仁

山本 直孝

四十物谷貴子

嵐 奈津恵

未来とのPromise

叶わぬ夢なんて一つもないんだよ

愛羅舞優？OK！パンボー♡♡♡

みんなバイバイ……………

涙より愛かも 束縛より自由かも

涙の向こうにある未来を探すよ

私の時代は、これから始まる!!

自分らしく生きること……………

みんな“HAPPY”でいよう

今じゃ戻れないけど……………

貴方という時の自分が一番好き

想い出もいつか幸せにかわるから

卒業してもがんばりましょう。柳

またね。

あの頃が一番夢中になれた……………

別れると、あきらめるはちがうよ

いつでも悪気はなかったよ

いつか会う日まで・さようなら！

いつかまた出会うためのサヨナラ

涙の数だけ強くなれると信じて



池内 寿子

今津 那智

入江 さち

大林 玲子

笠原 可野

木村 智美

佐藤由美

佐藤 友美

佐々木美嘉

清水 陽子

下国 弓

田口 恵子

竹 まなみ

中村 和恵

西口しのぶ

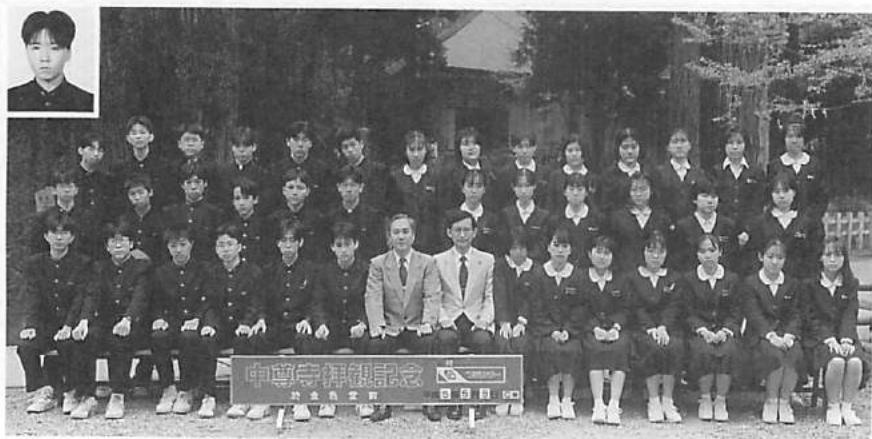
長谷川千佐子

小山 乙絵

町屋 泉

三浦ルミ子

吉田由貴子



吉田 定森 榊田 山崎 増子 高橋 小林 隅田 中者 金谷 加藤 稲見 野呂 王
 (新)
 峰下 宗山 小西 高橋 鳥山 木村 盛田 館下 松木 荒木田 山名 立川 中村
 (祐)
 宮田 成田 倉成 亀井 井上 高瀬 笹谷先生 教頭先生 牧田 野口 今野 宮夫 辻口 自 中山

3-C

私たちの3-C

笹谷級

皆、優秀な奴だった。へんな奴は誰一人いない。だが今思うとそれは全部間違っていた。皆それぞれの考えを持っていて、時にはばらばらになるクラスだった。そうして今ここに三年C組という一つのクラスがある。

ところで、この一年間の思い出を、まず、四月から順に振り返ってみよう。

四月、ドッキドッキのクラス替え。五月、まちに待った修学旅行。(楽しかったね。)六月、体育大会。(みんながんばったね。)九月、皆で力を合わせてつくりあげた文化祭。合唱コンクールでは、賞はもらえなかったけど、毎日、放課後に一生懸命に練習したね。十月、球技大会。C組は、ここがみせばだった。なぜなら、男女とも心を合わせて、けつから一位だった・・・十二月、恐怖の三者面談。一月、冬休み。私達受験生は、必死に勉強しなければならなかった。二月、私立高校入試。三月、公立高校入試。そして涙の卒業式。やっと一つの長い戦いが終わった。これからすべて青春の一ページになるだろう。

最後に、笹谷先生ありがとうございました。

卒業生一人一言

31C 編

みな様お幸せに……

いまに生きる

まほうつかいハリー

入江さっちゃんラブラブリー♡

・・・・・・・・・・・・・・・・

前髪ベタ男参上!!!

信じるモノのためまっすぐ前へ…

僕は3月3日のひな祭りです。泣

I Love Me。ワハハハ

Good Luck!

努力を集めて栄光を体中に浴びれ。

ア~~~~~ソウティッ

まっ、がんばれや!!

I Love You .

BUTCHER'S WIFE

けっぴん電動ハブラシ

清く正しくたくましく

おれはホモじゃない

私とあなたの終わりのない恋

4月バカ

亀井 佑樹

木村 潤

倉光 和孝

小林 正顕

小西 忠男

定森 裕也

宗山淳之介

高瀬 龍文

高橋 新

高橋 祐史

烏山 悟史

成田 雄二

増子 渉

樹田 直樹

峰下 直純

宮田 政好

山崎 浩

吉田 功二

荒木田昌子

稲見 由香

ふざけて言った言葉は別れの言葉

涙も歩き出す勇気になるから

本気で賭けてみる心は嘘じゃない

二人の悲しみさえ汚れていった

夜を越える度に2人ただの男と女

永遠に戻ることはない時間の中で

きつと忘れない。Ha Ha Ha…

老後にあこがれる今日このごろ…

——スバゲティ事件?——

それだけで何も変わってないね

すれ違う瞬間笑い合えてよかった

誰かに抱きしめられたい夜もある

見えない明日を歩きだそう

花には水、君には僕の命……

思い出刻みこんで……

いつかまた逢える日を信じて……

大人には分からない事なのさっノ

あの想いいつの日か卒業したね。

何処に行けば 苦しみを愛せる



王 彩

加藤美紀子

金谷亜希子

邑 三奈子

小林 良美

今野 未穂

隅田 悦子

館下ひとみ

辻口 浩子

中村未知子

中者 玲子

中山志穂美

野口 雅世

野呂 聖子

牧田 悦子

松下 寿美

宮夫 裕規

盛田千加乃

山名 礼美



米内山	南部	船山	安食
佐々木(雅)	加藤	山川	小杉
前田	後藤	山本(重彦)	藤山
今	岡村	山本(重彦)	山下
上田	星野	渡辺	山本(重彦)
市島	五十嵐	佐々木(麻)	田村先生
福井	広部	柏	教頭先生
魚住	橋	近江	谷川
足利	本庄	倉嶋	小泉
田村	蒲生	上森	米谷
	白川		外崎
	三浦		

3-D

すばらしきかな3D

田村綴

我3年D組は、となりの一言一言を見てわかるように、ホントに個性的なヤツばかりで構成され、いろいろな面があります。合唱コンクール金賞・壁新聞コンクール金賞・体育大会優勝などなど、すんばらしい団結力で勝ち取った成績がある一方で、いーつもチャイムを守らずにうろうろして、担任のミス田村に怒られてしまうという悲しき事実があり、また一方では、社会の時間のあてあいで男女の対決がはじまったり……。と、まあ、一年中、うるさく、あかるく、よく食べるクラスです。まだ幼かった1年から2年そして3年生になって、本当はないはずのクラスがえがあり、最初はブービー言っていた私たちも、すぐに協力しあい、受験に向けてがんばってきました。ミス田村に怒られながらもすごしてきたこの1年は、数々のでき事と一緒に、私たちの思い出となるでしょう。将来クラス会でもひらいた時には、うるさく、あかるく、よく食べるおじさま&おばさまになっていることを願いながら、お別れしたいと思いま……あっ／チャイムだ／おーいたのむからみんなすわってくれよ……。

(市島 記)

卒業生一人一言

31D 編

過去を忘れる。

いつかまたこの時を……。

一日二善 ウイニングチケット

明日は俺のためにあるのだ!!

一日一善 オグリキャップ

これからは、シューマッハ時代

DOOR、I Believe、CR、

ぶろへえっさーワル

オッペケペー

ドラエモン大爆発Q太郎自爆

ためきのお言葉さまようたならた

地球は大切

地球は私のモノノ

思いうかばねーかききれねー

かききれねー

地球は俺を中心にまわっている。

・・・・・・・・・・・・・・・・

プロストの引退……。

I Love can - 発音すべ

GOOD BYE

足利 誠

魚住 章豊

近江 正明

柏 充

上森 政義

蒲生 豊

倉嶋 康之

小泉 啓介

白川健太郎

外崎 豊司

橋 秀樹

谷川 真一

田村 徹

廣部 貴昭

福井 拓也

本庄 智志

三浦 勉

米谷 博

安食 香

五十嵐ひろみ

悩むのも笑うのも忘れるのも自分
いつでもたこくくに会いに来てね
全てを捨てても貴方が欲しい
また会う日まで……。

NO1・ずっと忘れないでね2ハ

まぶたを閉じて永遠を感じて……。

人民の人民による人民のための私

殺したいほど愛してる……。

今、この時間を大切に。

我想う、そして描く、故に我有り

また会う日までさようなら。

こぼれる涙の暖かさを信じて……。

朽ちるほどに魂を灼く氷結の永遠

きつと忘れない焼けた思い出

喜び悲しみ共に語り合えたあの日

ずっと二人のこと忘れないからね

いつかあえるかもさようなら。

いろいろあった三年間ノ

必要とされて愛されたい。

NO2・1ハもう忘れた(ウソ)



市島佑起子

上田 絵美

岡村匡沙子

加藤 啓子

小杉美紀子

後藤 美麻

今 久仁子

佐々木雅美

佐々木麻祐

南部 妙水

藤山かおり

船山 陽子

星野 幸恵

前田 悠希

山川 加奈

山下真希子

山本亜希子

山本亜矢子

米内山恵子

渡辺 可奈

ボランティア

昨年9月、本校でボランティア活動公開研究会が開かれた。

五校中では、生徒会の活動の一つとして、毎年校外清掃が続けられてきました。

ここに、2年生の「ボランティア」についての感想を載せたいと思います。

亀田川美化活動に参加して

7月24日。集合場所の梁川公園へ行くと、「亀田川を美しくする会」のメンバーの方や、函館市の土木部の方が来ていました。

「亀田川を美しくする会」の会長さんから挨拶をもらい、その後説明を受け、すぐゴミ拾いを始めました。

普段、小さなゴミは目に止まらないことが多いものです。このような清掃活動をする、これらの小さなゴミでも、すぐ気になるものだと思います。

1時間近く、ゴミ拾いしましたが、拾い終わった時、とてもすがすがしく、さっぱりした気持ちになりました。

一人が「このくらいは」と思う気持ちでゴミを落とし、それが二人、三人となると「チリも積もれば山となる」の例のようにゴミはどんどん増えていきます。

このような気持ちの人が少なくなると、亀田川の周辺がきれいになり、皆が気持ちよい日常生活を送られると思います。私もそんな日が待ち遠しいです。

校区内清掃について

校区内清掃とは、私たちが通学している道路や小公園を清掃する生徒会行事の一つです。

校区内清掃をしていると、すごい量のゴミがあることが拾っているとはじめてわかります。

そして、なぜゴミを捨てるのかという疑問がわきます。

「自分がすてるくらい」という考えを持っているのではないかと思います。

しかし、そういう人のために、まわりの人々は迷惑しているのです。

げんに私たちや地域の人々が生活しているのです。後のことを考えて行動してもらいたいです。

ぼくの考えでは、校区内清掃の最高の理想は、しないでもすむようになることです。

なめるためではありません。一人一人がゴミ箱へ、灰皿へという気持ちさえあれば、ゴミ一つ落ちてなくて、校区内清掃がなくなってしまうです。

今は校区内清掃が大切です。地域の住民と一体となって一生懸命することが良いことだと思います。きれいな町を目指して。

みなさんは、どう感じられますか。ボランティアは、けっして「清掃活動」だけではありません。

身のまわりで、できるボランティア活動、ちょっと勇気を出してやってみませんか。

修学旅行記 (5月8日～5月12日)



一日目 (五月八日―出発式―青森へ)
出発進行!!

三年C組 高瀬龍文



五月八日の朝は早かった。天候は快晴。抜けるような青さだった。七時二十分に函館駅集合。そして全ての始まりを告げる出発式。全てが順調に行われ、僕は列車に乗りこんだ。車内の自由時間トランプをするもの者いれば、近所の人と話している者、お菓子をつまんでいる者もいた。特別変わったことはしていない。しかし、喜びと期待の表情を満面にうかべていた。そんなこんなで、青森駅に到着。駅を出、バスへと乗りこんだ。ガイドさんのいろいろな楽しい話を聞きつつ高速道路を経て、津軽サービスエリアに到着。昼食をとって腹ごしらえをし、長時間乗り物に乗っていた疲れをいやした。記念写真を撮る者、遊んでいる者、ベンチに腰かけて静かに時間を過ごす者トイレに行く者……。皆思い思いの時間を過ごし、再び僕はバスへと乗りこんだ。バスは一路盛岡子供科学館へ。プラネタリウムを見せられるという。膨らむ期待。
だが……？
旅はまだ始まったばかりだった。

一日目 (盛岡子ども科学館—金鶏荘)

星の王子“ピョんちゃん”と月へ

三年D組 本庄 智志



修学旅行一日め、かつて、“日本”のチベット”といわしめた岩手県の県庁所在地である、盛岡市内を見学。そして盛岡市郊外にある子ども科学館へ向かう。子ども科学館には、東北有数の規模をほこるプラネタリウムがあるという。ほとんどの人がプラネタリウム初体験である。期待している人も多かった。その期待を裏切らず、プラネタリウムはとても美しいものだった。上映されたプラネタリ

ウムの題名は、『ピョんちゃんと月旅行』。題名がふざけているわりに、かなり内容の濃いものであった。

子ども科学館をあとにし、一日めの旅館金鶏荘がある平泉に到着。ちょうど修学旅行のときはNHK大河ドラマ『炎立つ』の撮影前ということ、町全体が、それに関連することはいっぱいあった。

金鶏荘では、三日間、秘密に楽しもうとしていた花札を某体育教師N先生に没収された人もいたし、廊下で正座して先生と話す人もいたり、とても楽しいひとときをすごすことができた。

二日目 (五月九日—梟鼻溪)

大絶壁に囲まれて……

三年A組 山 名 梨 絵



砂鉄川をはさんで、30メートル120メートルに及ぶ高く険しい大絶壁がスゴイ迫力でそびえ立っている。その中を“げいび追分”に酔いながらのんびり舟下り。“げいび追分”と舟下りをたたく水音が岩々にこだまし、また川面を走る冷たい風がとても心地良かった。舟下りの途中に置いてあるさい銭箱。何だかんだ言いながらも、みんなそれぞれの願いをお金にたくし、投げていた。たとえその願いがかなった、かなわないにしろ今となっては一つの思い出。“げいび追分”の他にもたくさんさんのギャグをとばす船頭さん。それに大笑いするみんなの笑顔、もうすっかり客慣れしてしまったという様子で川底を列をしながら悠々と泳ぐ鮎たち、それを見て川底に手を伸ばす私達。

胸の中にそれぞれの体験を良い思い出として刻み、今の気持ちを私達はいつまでも大切にしていこう。

二日目 (平泉中尊寺—羅賀荘)

金色堂Ⅱ成金趣味？

三年D組 本庄 智志



猊鼻溪を見学したあと、再び平泉に戻り、中尊寺を見学した。中尊寺は奥州藤原氏が築き上げた独自文化の象徴である。特に金色堂は十世紀ころおこった浄土教芸術の作品として、とても有名である。

金色堂は、やはりその名のおり、金だらけだった。しかもまぶしいくらい。思わず手を合わせてしまっている人がけっこういた。千年近く昔の文化を目の前で見るので、ある程度の感動は予想していたけど、あれはあまり感動できるものではなかった。確かに奥州藤原氏の権力のすごさというのは、わかるのだが、何となく「成金趣味」という感じだった。年老いた時にもう一度見たら感動するかもしれない。

そして、僕は平泉をあとにし、二日めの旅館羅賀荘を目指し田野畑へと向かった。田野畑はリアス式海岸が有名などころ。羅賀荘の窓から見下ろす海の景色は絶景であった。羅賀荘も素晴らしい旅館だった。

三日目 (五月十日・龍泉洞)

忘れられない地底湖の青さ

三年C組 宮 夫 裕 視



雨の降る中、到着したのは龍泉洞。雨具は学校の方で用意されたポケットコートのみだったので、それを着ている人も何人かいましたね。で、記念写真を撮った後、いよいよ中に。

そうそう、「長生きの水」なるものがありました。みなさん飲みましたか？…本当に長生きできるんでしょうかね…。

洞内は、暗くて寒くて…。あまつさえ上から水滴が落ちてくるという始末。でも、地底湖を見ればそんなものなんのその。吸い込まれそうな透明感に思わず感激の声。

途中、きつい階段が。「まだあるのー?!」と叫んだ方がたくさんいることと思います。確かにつらかったけど…あれは…。

前にも書きましたが中は本当に暗い。だからきつと、龍泉洞の中の写真をまともにきれいにとれた人はいたとしてもごくわずかな人だけでしょね。しかし心には、しっかり残った場所だったと思います。あの水の青さは忘れられない思い出です。

三日目 (盛岡の岩鑄)

伝統と技の南部鉄器

三年A組 伊藤 嘉邦



修学旅行も後半に突入した三日目。羅賀荘を後にし、龍泉洞を見学した僕たちは、再び盛岡市内へは入り岩鑄へ行った。

この岩鑄では、まず昼食である幕の内弁当を食べ、次に岩鑄鉄器館館内を見学した。とても大きな建物だ。ガイドさんもついた。重量350kg・容量380ℓもある“世界一の鉄びん”は、僕たちの興味をそそいだ。これは、伝統と技がとりまく空間への、入口でもあった。自動ドアが開く。南部鉄器のすべてがわかる気がした。釜師たちは鉄器を作っていた。山車、チャグチャグ馬コが展示されていた。そんな中で、一番鮮明に覚えているのは、最後に手わたされた鉄器だ。見れば見るほど、釜師たちの手間、そして伝統までもが、伝わってきて、僕の心をなごませる。今は机の中に大切にしまっている。しかし、いつかまた鉄器を手にし、この日に戻りたい。

伝えられてきた確かな人の温もり、ふるさとの輝きがあった岩鑄。いつまでもその温もりを失わないでほしい。

三日目 (盛岡の手作り村) 体験学習

竹細工に挑戦

三年B組 菅原 祐紀



手作り村ーみなさん、覚えていくでしょうか。修学旅行三日目に訪れた、思いで深いあの場所を。僕は竹細工を選びました。しかし、自分は少し竹細工を甘くみていました。実際作業してみると、ベチランのおじさんのように水をぬらしても竹が思うように曲がらなかったり、一度竹の通し所をまちがえると、そこまで巻いた竹を全て取り除かなくてはならなかったりと、かなり悪戦苦闘を強いられました。さらには最後の仕上げともいえる、台の下の「手作り村」というハンコまでにじんましまい、さんざんでした。

しかし、そんな苦勞をして作りあげたこの竹のペン立てを見た時、さすがに心にジーンとくるものがありました。皆それぞれ形がビミョーにちがっていましたが、それもそれでいい思い出の一部分となるのではないのでしょうか。竹細工のみならず、わら細工、馬コ、そして湯のみ絵づけも、“自分で作った”という理由があるだけで、最高の思い出になってくれるのではないかと思います。

三日目 (レクリエーション・八幡平リゾートホテル)

あの日・あの時・あの場所で：

三年B組 吉田 由貴子



あの日、あの時、あの人の歌声を忘れないだろう。

修学旅行も三日目、さすがにみんなの顔にも疲れが見えるようになったころ、数々の見学地を胸に興奮がさめきれぬまま、八幡平リゾートホテル着。そう、ここでは楽しみの一つだったレクリエーションであるカラオケ大会が行われるのであった。

各クラスから歌のうまいと評判の人や人気者達が三組ずつで競わされた。さすが選ばれた人だけにどの人達も上手だった。歌うたびに「オー」という声があがり、拍手が飛び交い、ある人にはひやかしめ、ある人には注目を一身にあびた男がいた。そんな中でひとときみんなの注目を一身にあびた男がいた。その男が歌い始めるとあまりのうまさに会場はシーンと静まり返り、歌い終わると同時に今まで以上の拍手と歓声が上がった。レク委員のくせに優勝をうばっていったその男の名は伊藤公德。普段はおちゃらけてるのに……。

あの日、あの時、あの場所で、あの人の歌声が響いていた……。

四日目 (五月十一日・マインランド尾去沢―帰園)

坑道に見る鉱山の歴史

三年D組 後藤 美麻



四日目、修学旅行、最後の見学地は、『マインランド尾去沢』でした。尾去沢では、マネキンを使って作業現場などを再現した所をマグシーバーを耳に当てながら鉱山を歩いていくと、白い物が全て光るレーザー光線などあり、見る人を楽しませるような不思議な世界をこの尾去沢で体験することができました。

こんな感じで三泊四日の長いようですごく短い修学旅行、最終日の見学が終わり、ホッとひといきついたとこでバスにのり、青森駅に向かい、青森駅から函館へと無事に到着することができました。こうして中学校生活、最初で最後の修学旅行は、幕を閉じたのでした。この修学旅行では、地方の文化や自然などを自分達の目で見、感じて、いろいろな知識を得られたと思います。そしてこの中学校生活の中で、一番楽しい思い出になったと思います。

成 度
平 年
五 年

栄 誉 を 讃 え て

この一年の
軌 跡

体育行事

《函館市中体連競技大会》

。陸上

男子二〇〇M	第八位	高瀬 龍文
男子八〇〇M	第六位	湊 康太
男子一年一五〇〇M	第三位	玉森 和久
男子J四〇〇MR	第七位	植田 大介

男子一〇MH	第七位	松村 康仁
男子三種競技B	第八位	福井 拓也
女子一年八〇〇M	第七位	松行 麻里
女子三年八〇〇M	第三位	西口しのぶ
女子一五〇〇M	第五位	西口しのぶ
女子三種競技B	第八位	渡辺 可奈

。野球

優勝

。卓球

団体 準優勝
個人 優勝 蒲生 豊

第三位 棚上 大輔

(右の二名は全道大会出場)

。水泳

女子一〇〇M自由型	優勝	熊谷 翼
女子二〇〇M自由型	優勝	熊谷 翼
女子一〇〇Mバタフライ	優勝	黒田 史穂
女子二〇〇Mバタフライ	第二位	黒田 史穂

《全道中体連競技大会》

。水泳

女子一〇〇M自由型

第四位 熊谷 翼

女子二〇〇M自由型

第二位 熊谷 翼

女子二〇〇Mバタフライ

第八位 黒田 史穂

《渡島支庁大会》

。野球

準優勝

《新人戦大会》

。野球

第三位

。卓球

団体 第三位
個人 第三位 宮崎 慎一

文化行事

《吹奏楽コンクール》

函館地区大会 銀賞

《NHK合唱コンクール》

道南地区大会 銅賞

《リコーダーコンクール》

道南地区大会 金賞

(全道大会へ)

《函館市青少年芸術コンクール》

音楽部門

銅賞 市島祐起子

書道部門

入選 柏 充

文学部門

入選 館下ひとみ

《毎日新聞・作文コンクール》

テーマ 明日をみつめて

三年

入選 赤山 りえ

一年

入選 榎森 育美

入選 黒田沙枝子

入選 齊藤 敦子

入選 横山 友紀

入選 松村麻衣子

《消費生活ポスターコンクール》

一年

入賞 鈴木たか子

《函館市社会科自由研究展》

一年

銅賞 山本 千鶴



学級プロフィール →→→ 1・2年



一年A組

FIGHT! 我ら一年A組よ

岩崎 鶴好 先生

僕達、一年A組は、男子十八名、女子十八名で構成された、とても明るいクラスです。

入学当時は、みんな死んでいるのかと思うくらい静かだったけど、今はもう元氣いっぱいこのクラスになりました。

僕達の長所は、一人一人が一人倍の『協力的』を持っているという事と、短所は、授業中の私語が多いという事です。一度注意するだけで静かになってくれます。(静かにならないときもある)担任の岩崎鶴好先生は、今年本通中学校から来た英語の先生ですが、きびしいようで、やさしい先生です。また、掃除の時は、細かい所まで、きれいにやりますし、自分の生徒のことをよく考えてくれます。

現在、一年A組には8枚の賞状があります。ほかに、個人賞では、たくさんの方がとっていますが、どれも一生懸命がんばって一つ一つの証なのです。

そのような、努力をしている僕達でも失敗はあります。何回も忘れ物(とにかくすごい回数)をしている人がいたり、ときには、けんかをしたり、悪口を言い合ったりといういろいろなことがあります。けど、やっぱりクラスメート、最後には仲直りをします。

一学期に個人目標をつかったけど、いったいどれくらいの方が目標を成し遂げることができたのでしょうか。

もうすぐ二年生。みんな、**「FIGHT!」** (高松 啓 記)



一年B組

私達の一年B組

木村 以久子 先生

私達一年B組は女子十八人、男子十七人の明るく楽しい学級です。一年B組は、男子も女子もとても仲が良く、みんなで一人一人いろいろな力を持っている人達ばかりです。そのため、一年B組にはありとあらゆる賞状がたくさん張ってあります。校内体育大会優勝から始まり、文化祭の賞状など様々です。どれもこれも、みんなの努力の結晶です。

一年B組には特徴(?)が二つあります。一つ目は、みんなとても元気なことです。ときどき元気すぎて、授業をやっている先生方に、迷惑(?)をかけることもあります。しかし、みんなとても素直で、悪いことをしてもすぐにあやまるし、次からは二度とやならなくなります。二つ目は、忘れ物が多いということです。毎日忘れ物調べをして、先生から“チョップ”を受けているのに、数人のレギュラーメンバーは、いっこうに減りません。これは、これから直していく一Bの課題の一つです。

今の“チョップ”という言葉からもわかるように、一年B組の担任の先生は木村以久子先生です。木村先生は、何でも物事に真剣に取り組む先生です。何事にも一生懸命なので、つい力が入って、お話が長くなっちゃったりする(//)のも先生の特徴です。しかし、私達のことをとても大事に思ってくれています。

一年B組が、一つだけ自信を持って言えることがあります。それは“二年生になっても、明るく素直な生徒でいられる”と。これらも、がんばっていきたいと思います。(榎森・佐藤(卓)記)



一年C組

明るい一年C組

内木 竜 先生

「あいさつがとていいね一年C組は。」と入学した時から言われていました。一年C組のいいところは元気で明るいところなんです。入学したころは、授業中はとても静かでした。今は前よりうるさくて、時々先生をおこらせてしまっています。でも一日の中でC組にもとても静かな時間があります。それは給食時間です。「いただきます。」と係が言うまでは、「静かにして。」「静かにしろ。」などと言葉が出ていたのに、あいさつをしたとたん、食器の音しか聞こえなくなってしまうのです。ときどきざわめくのですが、すぐ静かになり、「ごちそうさま。」と言ったとたんに一年C組はもとの状態になるのです。

担任の内木先生は、クラスを持つことが初めての先生で、とてもまじめですが、授業中じょうだんを言っても、いちいち注意しないでいっしょに笑ってくれたり、とてもたよれる先生です。

でも、C組は、明るくうるさいだけではないと思います。C組はみんなで力を合わせるのが上手なクラスだと思いました。いろいろな大会やコンクールで、みんなで力を合わせてできたことが、賞状なんかより、ずっとよかったと思っています。一年C組はバラバラになっても、みんなで力を合わせてがんばったことや、先生に注意されたことなどを忘れずに、これからは2年生として、がんばっていききたいと思います。

(斉藤 敦子 記)



一年D組

楽しくけじめのあるクラス

古館 勉 先生

私達一年D組は、男子十六名、女子十九名で構成された、とても明るく楽しいクラスです。しかし、明る過ぎて騒がしくしてしまうこともあり、先生方から注意されることも、しばしばあります。でも、こんなにうるさい一年D組も、やる時はやります。その証拠をいくつかあげてみましょう。

第一に、一年D組の学力について、お教えしましょう。このクラスは、とても努力家で、テストなどの日が近づくとつれて、その努力も最大になります。担任の古館先生も、「努力を惜しむな。結果は後からついてくる。」と生徒になげかけ、私達にとってとても大きな支えになってくれています。私達一人一人が、努力してがんばっているの、結果もまずまずで、自信をもって今日此頃です。

第二に、私達の団結力についてですが、皆さんも知っているとおり、一年D組は、文化祭の合唱コンクールで、みごと一位を獲得しているのです。このような結果を、生み出すことができたのは、毎日のように学校に残り、みんなで心を一つにし、声をそろえることができたからでしょう。

このような点から見ても、一年D組は、とてもすばらしい学級です。しかし、忘れ物が多いなどの短所も、長所と同じ位あるので、私達一人一人が、できる限り改善できるよう、心がけていきたいと思っています。

これからは、担任の古館先生も言うように、楽しむ分だけ、「けじめ」という面でも、しっかり励む次第です。
(横山友紀 記)



二年A組

我が二年A組

我が二年A組は、男子二十一名、女子十七名で構成されていて、とても明るく、先生にいわれたことはキチンと最後までやるということでも良いクラスだと思います。しかし、仲の良いクラスだから、やっぱりおしゃべりに花がさくのは言うまでもありません。給食時間はもちろん、学活の時間は先生の話をきいている人より近所の人とおしゃべりしている人の方が多いのではないのでしょうか？

それに、一人一人の個性が強すぎて、かげではけんか(いじめ等)をやっていたり、まだ小学生気分なのか、おにごっこをやっていたり……とまったくしょうがないクラスでもあります。

話が変わって、担任の松山先生は、「ハイ」が口ぐせでいつもハイハイ言っています。ときどきクラスのみんなをわらわせます。一時間目が体育だというのに一人で八時四十五分(教室に来てから約十分位)まで話をしていたり……などと話ぶきの先生です。たまには先生の話が「うるさいな」と思う人がけっこういると思いますが、大部分の人は、その話も右耳から左耳にぬけていくことが多いことでしょう。また、ウチのクラスは、男子の協力がたないのです。例として文化祭をあげましょう。年中行事で一番賞状をとれる時なので松山先生も「合唱コンクールでは賞状をとるように」などとはいったものの、ウチのクラスは文化祭では賞状は一枚もとれませんでした。しかし、球技大会では女子が優勝したのでホッとしています。こんなクラスですが、とても明るく、とても良いクラスだと思っています。

(黒田史穂 記)

×がなみんやをい
かは28 PLEASE



二年B組

我々の二年B組のすべて

我々のいる二年B組は素晴らしい個性を持った人がいるクラスです。その一人が我々の担任中谷満殿です。なぜなら、給食はほとんど食べず、生徒が先生はなにを食べているのか心配するくらいです。あと短学活が短いことです。例えば帰りの会だと「明日はなににもなし。」で終わってしまい、三十秒かかりません。二年B組以外の方々うらやましいことと思います。まあ、これをもちまして我々の担任中谷満先生の紹介をおわらせていただきます。

次はみなさん興味あるかわかりませんがかってに教室の様子を紹介します。こういう学級紹介ではよくでてる賞状の数は多すぎてかぞえきれないので発表しません。これは冗談で全部あわせて七枚です。これが多いか少ないかは自分の学級のをみて判断してください。前に書いたように個性的な人が多いのでけっこう授業中はうるさいほうだとぼくは思っています。いつも笑いがたえませんが、これがあるい学級というのでしょうか。

しかし、ときにはこの個性的な人達が一致団結して個人の短所をカバーしあうときもあります。その証拠が合唱コンクールで銀賞をとったことです。みんなが心をあわせて一生懸命歌った結果がこの輝かしい賞状になりました。

二年B組には先生をはじめとする三十八人が素晴らしい個性をもっています。たがいに長所短所をいかしつつ、楽しい中学校生活をおくる予定です。

(菅原 宇央 記)



二年C組

個性的なメンバーが 集まる二一C

2年C組は、とても静かなクラスに見られているようですが、実際は違うのです。その証拠に運動系のイベントでは大活躍、確かに学習面や文化面では、あまり成果が出ていません。その原因はとも個性的なメンバーが集まっていることにありそうです。これだけ個性的なメンバーだとどうしても一部の人だけのグループでかたまってしまい、そこが問題と言えるでしょう。

そのクラスがいままで一番がんばったのが文化祭です。二一Cにとっては不得手だった文化系の活動だらけの中、合唱コンクールでは入賞してもおかしくないだけの声量……。残念ながら出ませんでした。が、ポスターコンクールやかべ新聞等の個人技でおおいにがんばりました。ポスターコンクールでは学級優秀賞、かべ新聞では銀賞という、輝かしい成績をおさめました。

担任の萩野先生は、国語の先生で、2年生の全部のクラスで国語を教えています。温厚な先生で、黒板に書く字がきれいですが、国語のテストが難しく困ります。萩野先生を中心にまとまってきた2年C組も約8ヶ月がたち、2年C組として活動する機会ももう少ししかないわけです。中学生という時期は人生七十年といわれる今日においては、長い道のりの中のほんの一部にすぎませんが大切な時期であるのは確かです。頑張る気持ちはあるが一步二一Cの教室に入るや、その雰囲気にとどまりとひたってしまい「これではだめだ」という気持ちはどこへやら後悔の日々は続くのです。残り少ない2年生の時期を充実させたいと思っています。(山村 大記)



二年D組

一生に一度の二年D組

僕達二年D組は、男子二十名、女子二十名、計十六名で構成された、団結力の強いクラスです。

担任の大村先生は非常に教育熱心で授業でわからない所があるとわかるまで教えてくれます。また学級活動の時間の時などには、高校入試のことをプリントでくれたりと、生徒からの評判の良いやさしい先生です。

その大村先生のもとで過ごした二年D組の自慢は文化祭での合唱コンクールです。それまで2年D組は体育大会などでも、悪い成績で、「団結力の無いクラス」と思われていました。それですから「今回もどうだろうな」これが本音でした。しかしこの時は一味違いました。「金賞は二年D組」そう発表された時は、とてもうれしかったです。それからは「団結力の有るクラス」に変身しました。

学級での様子ではというと、授業はみんな真剣に取り組んでいると思います。しかし発表がイマイチ少ないような気がします。事実、授業の反省を先生に聞くと、発表が少ないとよく言われます。生活面では、不用物点検を徹底して行なっているの、全く心配はいらないと思います。

さて僕はこの二年D組を通して、やはり団結ということをお伝えれたと思います。それは一人一人ががんばりできることだと思っています。まもなく僕達は三年生になります。この2年D組での経験をもとにはばたいて行きたいと思っています。「一生に一度の2年D組」で生活できたことを幸せに思っています。

(山崎 真裕 記)



宿泊研修旅行

6月10・11日



昔のおもかげを残す中村家

二年A組 藤原 美和子

あいにく天候にはめぐまれませんでしたが、とてもためになった宿泊研修でした。

私は江差で生まれたのですが、まもなく父の転勤で函館に引っ越し、江差のことは全く覚えていません。何度かは家族で遊びに行ったことはあったけれど、また、こうやってみんなでこれたのがとてもうれしかったです。

私たちは、身近にある江差という町をあまり知りませんでした。それで、できれば中村家だけではなく、いろいろなことについて調べてみたかったのですが、時間が足りなくとも残念でした。

中村家は昔のままの建物で、中に入ったとたん侍でもいそうな雰囲気でした。はっきり言う第一印象は、暗くて気味悪かったです。

中に入ると畳が目につきました。そこには今ではとても珍しいイロリがあり、障子もありました。あかりも、今のようには明るくはなく、薄暗い感じでした。

今はあたり前に使っているものの中にも、昔はなかったものがあることも知りました。例えば、水道はなく、井戸から水をくみあげていたことなど、今と昔を比べると、現在、私たちの生活はずいぶん便利になったんだなあと思いました。と同時に、ずいぶんと、ぜいたくになってきたんだなあと思いました。

江差のように歴史を守りつづけている町をみないたいと私は思いました。

開陽丸見學記

二年C組 藤田祐子

前から楽しみにしていた宿泊研修でしたが、中でも一番期待していたのは自主研修の中の開陽丸の見學でした。

私達の研修内容の「開陽丸と西洋文化」、具体的にいうと、引き揚げられた遺物を調べるということですが、パンフレットなどの写真で事前に調べていたので、実物を見るのは楽しみでした。

最初に見たのは、大砲でした。写真を見ただけではわからないような、堂々とした感じを受けました。その後、調べてきていた物を探して見て歩き、写真を撮りました。一番見たかった、スプーンとフォークも見ました。写真で見たととき、その「スプーンとフォーク」を頭の中で想像していたのです。どんな色なのか、大きさはどのくらいか、現在の物と同じかどうか。実際に見た時は、ただすごいと思いました。私達が使っている物と、ほとんど同じように見えませんでした。ただ、百年以上も前の物なので、かなり傷んでいる様子です。しかし百年も前に使われていた物を、現在同じ形で使っているということから、開陽丸とはあまり関係ないことですが、「実用的なものは時代が変わっても使われる」ということを、つくづく思い知らされました。

その他にも、双眼鏡、釘、クサビ、日本刀など、興味をそそられるような物を見つけ、写真に収めました。

開陽丸を見學できて、本当に良かったと思います。

期待していたとおりの町・江差

二年D組 島山 智

私は、まだ、私の住んでいる函館のこともよく知りません。ですから、宿泊研修で行く所が江差だとわかった時、どんな町でどこにあるのか、ぜんぜんわかりませんでした。でも、事前調査をしていくうちに、江差は、すごくたくさんさんの歴史や文化があるということを知り、江差へ行くことをすごく楽しみにしていました。

江差へ到着し、いろいろな場所を見學しながら、やはり、期待していたとおりの所だなと思いました。

とくに、私は、開陽丸を見て、すごくびっくりしました。あんな大きい船を見たのは初めてだったので、なんか感動しました。海を見ただけでも感動してしまう私です。その海にあんな大きい船が浮いているなんて、はつきりいって驚きました。開陽丸の中には、大砲とか、西洋から取り入れられた物とかが展示されていましたが、それよりも、人形が実物とそっくりなのになびっくりしました。

私たちの班は開陽丸しか見ることができなかったけれど、私はそれだけでじゅうぶんだと思いました。それは、開陽丸の館長さんらしき人が、私たちに、保存のしかたや、開陽丸のなりたちなどについて、本当に親切にくわしく教えてくれて、しかも、資料とかをたくさんくれたりして、とてもうれしかったからです。見學すると同時に、人のやさしさとかもわかって、なんとなく、得をした気分でした。

新・旧生徒会総務座談会



「生徒の求める校則」

司会

これから生徒会座談会を始めます。本題に入る前に、1年間の生徒会活動について旧総務の人に反省や意見をだしてもらいたいと思います。

岩間

文化祭への取り組みの時間が今年は少なかった。時間にもっと余裕があればよかったと思います。

金沢

時間はすくなくあったが、取り組みの内容は良かったと思います。

杉村

来年は、もっと生徒の意見が取り入れられるものにしてほしいと思います。

川股

朝のあいさつ運動で生徒会の総務ばかりがあいさつをして生活委員や代議員また生徒のあいさつがいまひとつであったと思います。

河元

いままでの生徒会は、先生に言われることしかやっていないのでこれからは生徒会中心に動くことがあってほしいと思います。

柏

毎日のあいさつ運動が総務はきちんとでき、生徒もすこしづつではあるがきちんと取り組むことができたのでよかったと思います。

川股

新総務にはあいさつ運動の強化と来年の文化祭はもうちょっと内容のこい文化祭にしてほしい。

柏

旧総務ではボイズボックスが中途半端になりいかすことができなかったのも、新総務にはくふうをし、生徒にPRしてボイズボックスを活用してほしいと思います。

司会

「生徒の求める校則」について話し合っていきたいと思います。

杉村

校則について守っていない人が多いと思います。その理由

司会

は校則について知らない人が多いからではないでしょうか。1年生は、学校に入学してどう感じましたか。

倉嶋

小学校では、けっこう服装などについても自由という感じでしたが、中学校に入っているいろいろきまりがあり、とまどっています。

東

私も小学校の時は、かみ型やゴムの色が自由だったのに中学校に入ってきたら、「校則」で決まっていたて驚きました。3年生は、この3年間の学校生活を通してどう感じていますか。

司会

どこからどこまでが「校則」なのかはつきりわからないところもあるのでは。

斎藤

わたしたちが感じる、必要な校則そうでない校則とはどんなものでしょうか。

司会

一人一人の個性をつぶしてしまうようなものがあれば、必要ないと思います。

斎藤

私が、友達と話しているなかでよく出てくるのは「ゴムの色」や「ヘアバンド」についてです。「ゴムの色」などが自由であっても、別に問題はないのではないのでしょうか。こういうきまりがあると、先生方は、私たちを信用してくれていないのかと感じる人もいるのではないのでしょうか。

河元

「校則」が変わりまた、なくなったりして自由がひろがると、新しい問題もでてくるのではないのでしょうか。

網森

問題がおきると言いましたが、他の学校では、ゴムの色とかが自由でも、大きな問題があるとは思えません。

川股

生徒の意識がきちんとできていればべつに問題はないと思います。

青木

杉村

服装や髪型や頭髪については、男子はあまり気にしていないという人が多いのではないだろうか。女子が少し気にしているという人が多いと思う。

網森

自分としては校則でしばられているという感覚がありません。あまり、校則についてここを変えてほしいというようなことはない。もし、どこか変えてほしいというのであればきちんとまもられるものにしていくべきではないか。

岩間

私生活、校外生活までに関するきまりもあると思う。本校だけでは決められないきまりもありますが、こういう私生活に関するものまで、決める必要があるのでしょうか。

谷口

なぜこのような校則が必要かということをつつと考えてみてはどうでしょうか。

司会

「生徒の求める校則」について、生徒の考えを得るためにどうしたら良いと思いますか。

斎藤

生徒にとって、何が必要なのか、そうでないのかをはっきり分けることは必要だと思います。それに対する全校生徒の意見を集約して、先生方にお願ひ話しあってもらえれば良いと思います。

司会

では、今みんなの意見を聞く生徒会総務で協力して校則についての意見や内容をアピールして、少しでも生徒が校則に対し、意識を高めていくべきではないかと考えます。それでは、新生徒会総務の人にこれから校則についてどう生徒会として考えていくのか、聞きたいと思っています。

杉村

新生徒会総務では、校則についてのアンケートを実施してみたいと考えています。「校則」について生徒の意識を高め、先生方にここを直してほしいという点をまとめていきたいと

綱森

河元

司会

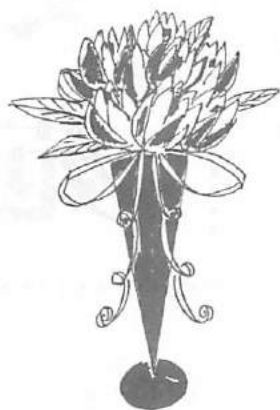
思います。そのためには、生徒会総務と全校生徒が一体となった、日常の生活が必要であると思います。

全校生徒の強い要望があれば、新生徒会総務の方でも前向きに検討していきたいと思います。

これからの生徒会総務は、生徒たちの声をいろいろな場面で取り上げる努力をしていきたいと思っています。

校則についての意識を深めるために、代議員会や各委員会の委員長を交えて生徒同志での話し合いや、生徒会と先生という間での話し合いの機会というのが必要だと思っています。旧総務では「校則」についてというテーマにあまりふれることができなかったので新総務にはこれからがんばって欲しいと思います。

これで、生徒会の座談会を終えたいと思います。



座談会出席者

三年

柏 充
齊藤 真由美
岩間 政和
金澤 秀司

二年

杉村 哲人
河元 美佳
綱森 史泰
川股 礼奈
青木 嘉郎

一年

東 静香
谷口 貴康
倉嶋 千恵

文苑

校内弁論大会

最優秀者論稿

私が見た友達

一年C組 斉藤 敦子

私が中学校に入学すると、仲のよかった友達も、ほとんどが別の中学校へ行ってしまったり、同じ中学校にきた友達も、別のクラスになったりと、とても不安でした。友達になつてほしい人がいても、断られるのがこわく、自分から声を掛けることができないので、友達をつくるのが上手ではないのです。小学校

の時も、他の子から「友達になろう」と声をかけられ、ただうなずいていました。が、私の考えている友達というのは、とても少ないのです。クラスが変わっただけで、話もぜんぜんしなくなり、前から知らなかった人のように言われてしまったこともありました。

なぜ、何のために友達になったのか、友達とはどういうものなのかと考えてしまったこともあります。確かに友達は、話していて楽しく、いっしょに遊んだりもします。相談相手にもなってくれます。頼めば、すぐうなずいてくれたりもします。友達だからと、悪いことを注意できずに、見逃がしてあげることもあります。時にはけんかもあります。でもすぐ仲なおりでできるのも友達だからだと思うのです。一人でいるより、一人で遊ぶよりずっと楽しいし、安心できます。大事にしようと思える、そういうのが友達ではないでしょうか。

いい人だと思って友達になったけど、相手のことがわかってくると、あの人って性格悪いなと思ったり、それを口に出したりすることがあります。表面だけの友達では、本当の友達とはいえないのです。だから、「友達になろう」と言われても、簡単に友達になれるものではないと思うのです。

相手のことを気づかったり、約束を守ってくれる、信らうできる友達。悪口には、友達の名前がでてきても、絶対うなずかなかつたり、冗談をわかってくれたりもします。友達の考えていることが何となくわかってきます。

友達が勝つと、自分もうれしくなったり、友達が泣いていると、なんとなく悲しくなってきたりもします。ふだんはふざけ合っているも、つらいときはなぐさめあったり、いざというときは、助けてくれたり、一人ではできないことを二人でやりとげることができる。遠くにいても時々友達のことを考えられる。私の気持ちをわかってくれる友達がほしいと思います。

私は、これからの中学校生活の三年間、たくさんの人と出会うと思います。けんかもするでしょう。気持ちのぶつかり合いもあるでしょう。でも見た目だけの判断では、いけないのです。自分でしっかり考えながら生活することが大事です。そして、友達ができるのを待つのではなく、自分で、自分にあった友達を見つけていくことで、いい友達に会えるのです。その中で、相手を知り、自分を知ってもらうことが大事です。いろいろなことをのりこえて、はじめて友達ができるのではないのでしょうか。そのために、正しいと思うこ

とを、言い合えるように努力していきたいと思ひます。

環境問題について

二年B組 岡 田 智 子

環境問題といえば、最近ではゴルフ場農業、原子力発電所、スバイクタイヤによる車粉、地下水汚染等、いろいろあります。しかし、これらの問題は難かしい面が多すぎて、私達には身近な問題としてあまり考えられません。そこで、私達にもよく理解できて、これから深刻な問題になると思われるゴミについて考えてみました。

以前に、私達は「亀田川をきれいにする会」のボランティア活動に参加したことがあります。又、校外清掃では学校の付近を清掃しました。とにかくゴミの多いのに驚きました。空カン、タバコの吸いがら、ビニール袋等、ただただ、呆れるばかりでした。

はつきり言って最初は面倒くさかったです。「どうして私達がやらなきゃいけないんだ」そう思いました。でも、その時ふとこう思いました。「どうしてこんなにゴミが落ちているんだらう。一体誰が捨てているんだらう。」確かに拾えばその時はきれいになります。し

かし、数日後にはまたゴミが散乱していることでしょう。これでは何にもなりません。では、どうしたらいいのでしょうか。シンガポールでは、ゴミを捨てると法律で罰せられるそうです。とにかく、手っ取り早く確実な方法です。実際に効果があるそうです。では、日本でもそのようにしたらいいのでしょうか。参否両論があると思います。でも、私はそこまでしなくてはならないのなら、あまりにも情けないと思います。そうなる前に、一人一人が事の重大さに気がついて、自分からゴミをなくすよう努力する事が大切だと思います。しかし、私達が心がけたところで、はたしてゴミはなくなるでしょうか。例えば、空カンを例にとった場合、企業は売れば売れるだけ製品を作ります。その結果、街にあふれるばかりの空カンがでたとして、その始末はどうするのでしょうか。リサイクルで回収したとしても、もう造る側から何とかしなければならぬ時代になっているのではないのでしょうか。又、ビニールの買ひ物袋や発砲スチロール類も問題の一つです。ただ手軽で便利だからという理由で、街中に氾濫していますが、これらも考え直さなければならぬ事の一つでしょう。

ところで、燃えないゴミは埋め立て地で処

分しますが、函館でももう限界にきていて、新しい処理場を使うそうです。大都市周辺の自治体では、処分できずに他の地域に持っていく所もあるそうです。北海道もいずれはそうならないといえませんが。この事も、役所だけに任せておくのではなく、自分達の問題として真剣に考えなければならないのではないのでしょうか。

私達も住む函館は、日本でも有名な観光地です。シーズンになると、沢山の人が訪れます。観光客の人達に快く過ごしてもらうためには、きれいな街づくりを心がける事が大切だと思います。そのために、一人一人はもちろんの事、家庭、学校、町内会等でボランティア活動を盛んにし、小さな事でもやがて大きな結果が出るよう、がんばりたいものです。わがふるさと函館。一人ひとりが自覚し、美しい町にしていこうではありませんか。

突然の恐怖

三年B組 吉 田 由貴子

7月12日夜、十時十七分頃、私がテレビを見ていると、突然グラリと大きな揺れが襲った。「地震だ。」と思った瞬間、台所から食器の壊れる音が響いた。家具類もガタガタと

鳴りだした。ますます揺れが激しくなる中、母に呼ばれ、両親とあわてて外に出た。立っているのもままならなかったその時、いっせいに辺りの電気が消えた。

真暗な状態で長く感じられたが、一分くらいだろうか、揺れがおさまり、しばらくして電気がついた。

家の中に入りまずテレビに注目した。震源地の近さと震度4だということを知り、すぐおどろいた。なにしろ震度4という地震は生まれて初めての経験だったからです。

次に家の中に目を向けてみた。おどろきの連続だった。食器は何十個も割れて辺りに散らばっており、棚からはほとんどのものが落ちてきていた。そして、私一人で動かそうとしても、びくともしないような冷蔵庫やタンスなどまでもが、かなり動いていました。みなさんの家でも、そうとうな被害があったのではないでしょう。

しかし次の日、新聞やテレビで比べ物ものならないくらい被害がいろいろな地域であったことを知りました。特に一番被害が大きかった奥尻島では、みなさんもご存じのとおり大規模な土砂崩れがあり、ホテル洋荘が崩れ三十人が生き埋め、下敷きになってしまいました。

そしてなによりも津波の恐怖をあらためて感じました。

今回の地震では津波がものすごく速く、犠牲者の六割が地震直後、二・三分ほどで避難する間もなくおしよせた津波にのみこまれての水死だったそうです。

川沿いにある住宅は跡形もなく流され、漁船をほとんど全滅に近い状態にまでし、海岸より30mはなれ、4m高い道路にいても波に飲み込まれかと思うほどの津波。それもそのはず、最大津波は高さ30m、一時間におしよせた津波は13回以上、最大沈下は90cmだったのです。いずれも今世紀一番の記録となりました。

マリンプルールの美しい海に囲まれ漁村らしくこぢんまりした街を一瞬にしてがれきの山に変えた自然の残酷さに私達はやりきれなさで無力感にただただ、立ちつくすしかないのでしょうか。

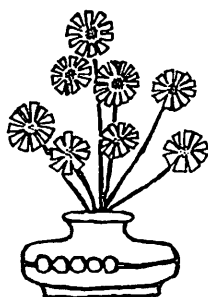
三年や五年ではどうにもならない、島の復興まで後何十年かかるのでしょうか。

昨日まであんなに平和に暮らしていたのに、たった一度の突然の自然災害によって、どうしてこんなに数々の悲劇が生み出されるのでしょうか。

この地震によって多くの人々の尊い命がう

ばわれました。今までごくあたりまえのように暮らしてきた大切な家族が突然消えてしまったのです。父を、母を、そして子供をうばわれてしまった家庭もあるでしょう。また、両親をいっぺんにという家庭も少なくはなかったと思います。「家はお金をだせば戻ってくる。しかし、失なった家族はどうすればいいのか。」何の前ぶれもなくなくなってしまう悲しみは、家族みんなが無事だった私達には、きつとはかりしれないものがあることでしょう。

今、私達は、こんな悲劇をくり返さないようにするため、いっどこからともなくおとずれる、恐しい自然災害を相手になにするべきなのか、どのような対策を立てればよいのか、地震だけでなく自然災害がきた時、いざという時のために心の準備や避難の仕方など今一度考えることが一番大切なことだと、私は思います。



俳句(三年)

思ひ出の修学旅行

東北地方の旅を詠む

〈旅立ちを詠む〉

胸はずむバックも軽やかに汽車に乗る

嵐 奈津恵

五月晴れ心うれしく旅に立つ

野口 雅世

トンネルに夢ふくらませる旅行かな

盛田千加乃

〈舟下りで詠む〉

げいび溪万緑の木々映し出し

斉藤真由美

げいび溪静かな流れに鮎の影

福原美知子

げいび溪若葉を眺め舟下り

堀 葉子

初夏の香り谷に漂う舟下り

若山 愛

新緑がまぶしく光るげいび溪

寺島 俊介

新緑と岩が鮮やかげいび溪

辻口 浩子

げいび溪若葉と岩に酔いもとぶ

南部 妙水

舟下り船頭の唄に耳すまし

船山 陽子

初夏の風髪をなびかせ川下り

上田 絵美

〈平泉を詠む〉

三代の悲しみ光る金色堂

中村菜美子

みちのくの浄土をうたう金色堂

西口しのぶ

ひっそりと緑にたたずむ中尊寺

菅原 祐紀

藤原の力あらわす金色堂

足利 誠

新緑の中に息づく中尊寺

加藤美紀子

〈バスの車窓から詠む〉

五月晴れ見知らぬ地からの贈り物

高野 真美

岩手山雪の帽子でお出迎え

館下ひとみ

水芭蕉山道の奥にひっそりと

成田 雄二

葉桜も雄々しき姿石割桜

星野 幸恵

〈龍泉洞で詠む〉

龍泉洞地底に息づく別世界

山名 梨絵

龍泉洞神秘の水に言葉なく

大林 玲子

暗闇で光る地底湖エメラルド

前田 悠希

龍泉洞落ちる滴に声あげる

安食 香

〈宿で詠む〉

荒れる海夜のとばりに波の音

武内 一城

ひとり聞く夜のホテルに遠蛙

中村未知子

真夜中に一人眠れぬ悲しさよ

稲見 由香

〈メインランド尾去沢で詠む〉

坑道に昔の苦勞が浮かびくる

魚住 章豊

短歌（二年）

年内にそう言いきった細川さん政治改革どこへと消える

山内 淳

粉雪が迎り一面空に舞う花吹雪に変わるのはいっ

山崎 千穂

吹雪つき滑り降りたる前方に羊蹄の山デンとそびえる

藤原美和子

雪解けの車粉思いてスタッドレス母怖がりて車のれずに

秋田 早苗

潮風とやさしくとけあうかもめの声魚の群れ見て滑空開始

新屋 由佳

先祖から歌いつがれた追分の歴史感じる江差町

松倉 智美

正月の雪降る街にどんと焼き暖かな火にみんなの願い

田島 聡

初詣で賽銭投げて願いごとたった百円願いはたくさん

宮崎 慎一

雑煮食べ心やすまるお正月仕事を忘れのんびりとする

飛山 力也

冬休みきたと思えば始業式机を見れば宿題の山

石岡 奈々

真っ白なきれいな雪を目の前に少しためらい足跡つける

及川 いずみ

冬休みこんなはずではなかったと過ぎゆく日々を後悔しつつ

岡田 智子

海底に今なお沈む開陽は幕末の頃を語るがごとく

杉村 哲人

冬の夜寒い寒いと口ぐせにこたつに集まるみんなの手足

金子 みゆき

我が願い胸に小さき石となり深く沈みて今日も転がる

佐藤 明希

いつまでも眺めていたいこの景色音もたてずに降り続く雪

藤田 祐子

勉強をやらうと思えば手につかず時計の針がむなしく進む

山田 裕美

もうすぐだ春が近づくこの季節春になったらわれ受験生

金子 恵

初日の出水平線にあかあかと陽光揺れて新しい朝

小山西 学

今の世に歴史を伝える中村家江差の繁栄横目に見つつ

網森 史泰

髪を切るもつたいないと悔やんでも肩すれすれの邪魔な長さを

上村 玲

お年玉欲しいばかりにお手伝い母の視線が気になる正月

葛西 志栄

お歳暮にもらった梅の木元旦に咲いて喜ぶ父母の顔

長内 啓子

冬休み最後の日にはのんびりとでも現実ば宿題の山

河元 美佳

川柳（二年）

お年玉 もらった後は すぐ貯金 高橋佳菜子
 新タイヤ つるつる路面で 上すべり 高松 啓
 バーゲンで 押し合いへし合い 苦しいよ 橋野 一恵
 お正月 どっと疲れる 父と母 工藤 秀太
 雪の路^{ちみち} つるんとすべった お友だち 船山 裕美
 母の顔 いつも変わらず 鬼の顔 奥田 菜緒
 自らの いびきにびびる 母の顔 黒嶋 宏美
 お年玉 親子の気持ち すれ違い 鈴木 陽子
 思い切り 使ってみたい お年玉 平池 康浩
 雪かきを しては本人 雪だるま 中 麻子
 おひな様 年に一回 笑顔見せ 浜田 美里

もちつきで 日頃の成果が もちに出る 上田 泰史
 三年生 スキー場に だれも来ず 横田 紘一
 ゲレンデは スキー学校 花ざかり 田中 悠介
 近道を 通ってみんな 行き止まり 金子 祐子
 宿題を ためて後から 大あわて 川島 雅望
 米不足 値上げしてから 顔を出す 黒田沙枝子
 冬休み たくさん宿題 大あわて 河村 法子
 雪が降り 子どもは元気 猫はここ 須藤 隼人
 よせ鍋で 家族みんなの 笑顔を見 榎森 育美
 米開放 農民怒って 大反乱 佐藤 卓也
 かき持たず 家出た時に 雨が降る 吉住 裕幸
 買えば捨て 捨てれば増える 粗大ゴミ 長谷川孝治
 初詣 他人は何を 願うやら 佐藤 祥一

当たるかな 一年の運 宝くじ 佐々木康二
 がんばって 疲れたまった 部活動 佐藤 裕介
 お出かけに 女性に支度 手間が取れ 岡 美里
 大津波 仮設住宅 寒い夜 山本 千鶴
 不況で 物価は高い いままでだ 小林 覚
 うそつきは 政治家の 始まりだ 山田 直人
 雪の道 人も車も 命がけ 笹木瑠美子
 家計簿 いつまで真っ赤 火の車 北川摩衣子
 寒い夜 こたつが一番 友だちに 横山 友紀
 悪魔くん そんな名前は かわいそう 東 静香
 このたき火 火だねは ハズレの宝くじ 小川いづみ
 宿題が 机の中で 眠ってる 藤野 静江
 弟が 寒いねと言う 雪の空 高橋美由紀

春近し 今思い出す 入学式

米内山里子

米不足 ごはんがパンに 変わるかな

高橋 克和

朝殺して ネコにひっかかれ 鼻にきず

藤井 美和

勉強会 かたがきだけで 遊んでる

倉嶋 千恵

入浴剤 一つでどこでも 温泉に

市島加奈子

初日の出 おみくじ引いて 願いごと

三浦 理沙

あの世でも 正月させぬ 事故事件

友田 聡史

困難の 時こそ 真の友がいる

石井 亮宇

喜びは 苦労した後 ついてくる

米田 美保

この地球 みんなで支え 生きている

中尾 茜

窓を見て 心にしみる 雪景色

和野 恵子

雪解けは もうすぐ春が 来る証拠

井端 恵

+++++ 生活文 +++++

おじいちゃん

一年B組 黒田沙枝子

私の祖父は、四〜五年前に皮膚癌になり、長い間手術や入院を繰り返した後、今年、春を待たずに亡くなりました。

若い頃の祖父は警察官をしていて、道南各地を転々として皆様の為に働いていました。退職後は家の裏に大きな畑を作り、その世話と家族のふれあいを大切にしていくなりの生活をしていました。

私は小さい頃、随分祖父と一緒に遠くまで歩いて行ったりしたことを覚えています。又、いとこ達も一緒に畑に出、トマトやキュウリなど、数々の野菜をとってきたことも記憶に残っています。

祖父は元気な人でした。元気で明るくて、丈夫で。無口だったけれど、冗談を沢山言っていてみんなを笑わせることの出来る人でした。けれど祖父は私の勉強に関しては熱心な人でした。夏休みなどに訪ねて行くと、必ずと言ってよい程こう言われました。

「みんなに負けないように、しっかり勉強

するんだよ。」と。

又、病気になる前から、私が「勉強は嫌いだ。」という、とてもがっかりした様子でした。

祖父はだいたいにおいて、温厚な、あたたかい、家庭的な人で、私は祖父の事が大好きでした。

でも、私は祖父が亡くなっても、寂しいとか悲しいなどの気持ちはありませんでした。長い間入院していた時の方が寂しかった。亡くなつてからは却つてずっと傍にるように感じるのです、お葬式の時も全然泣きませんでした。後で聞くと、母も私と同じことを感じたそうです。

私も祖父のような人になりたいと思います。



第二一回

中学生作文コンクール入選作

テーマ「明日をめざして」

大きな夢へ

三年A組 赤山 りえ

私は小学校一年生の時から生け花を習っています。自分では、こんな難しいことなどできるわけがないと思っていました。しかし、祖母は一生懸命になって教えてくれました。今になって私は幸せです。「こんなに上手になったんだなあ。」と私は思っています。それは、今まで教えてくれた祖母のおかげです。本当に、感謝しています。

最初私は生け花というものは、けっこう年をとっている人がやることだと思っていました。しかし、それは違います。生け花というのは、花が好きだからこそなのです。それに家の中に花がないより、一本でも飾っていると気持ちがいと私は思うのです。今までの家が暗いと思います。その時に、花を飾ってみましょう。きっと、家の中は前より明るくなるでしょう。

たった二本の花が、いろいろな面から実現

していくのではないでしょう。花を見てみると、いろいろなことが感じられます。

例えば、花にはなぜいろんな色があるのか。なぜこんな形をしているのか。なぜ日本風的な花と洋風の花があるのかなど。

生け花というのは、自然をそのまま使って表したりします。最初はどうか表したらよいか、とてもつらいかもしれません。でも、慣れてくれば、自分の考えで工夫していくことができます。

それと、今は外国でも生け花を行っているそうです。日本の伝統的な生け花をいける日本人が外国人に負けてはいけません。生け花は、あくまでも「日本の伝統的な生け花」と、何年たっても言われるようにしていきたいのです。そのためには、一人一人が一生懸命がんばらなければなりません。

私は、小さい時から花が好きで、それを見ていた祖母が私に生け花を教えようと思ったのです。やめてしまおうかと思った時もありました。でも、祖母の姿を見たとき、そんな気持ちは消し飛んでしまいました。その時に私は決心したのです。私はこの時から大きな夢を一步を踏み出したのです。

「生け花の先生」、この言葉が私をきらめかせたのです。私は絶対、祖母と母のあとを

継ぎたい。そして、二人に、いやみんなに喜んでもらえるような花をいけて、世界中のだれにも私を知ってもらえるようになりたい。それと、一番は「だれよりもいい花をいけたい。」これが私の大きな夢です。

「生け花」の道を選んだかぎり、途中でやめるなどということのないように、私は全力を出して、一生懸命がんばりたいと思います。そしてこの大きな夢を、早く自分の手で実現させたいと思っています。



◆◆読書感想文◆◆

「夏の庭 THE FRIENDS」

を読んで

二年B組 野口 淳子

まず始めに言いたい。この本に出会えて本当に良かった。

木山君の出会ったお祖父さんや、作者の祖父の話を読んでいると、私が九歳の時に亡くなった祖父が思い出されてくる。性格や容姿は全く違うけれど、私の「祖父」に対する思い出といえば、祖父父のことなのだ。

祖父父とは、いろいろな思い出がある。知り合いからもらった古いオルガンを廊下に置き、一人でオルガンの練習をしていた時、祖父は私を見にきてくれた。言葉すら交わさなかったが、寒い冬、それはストーブのように暖かく、うれしかったのを今でも覚えてい

る。この本は、「夏の庭」という題名にふさわしい、木山君達とおじいさんとの、夏の庭をめぐるの、いろいろな出来事の物語だ。「ぼく」達とおじいさんとの出会い。草むしりして、きれいにした庭に植えたコスモスの種。そして友情。四房のぶどうをまくらもとに置いての、おじいさんの突然の死。

「こんなのって、ひどすぎる。」

読み終えた時、私はそう思った。おじいさんの死の悲しみのあまり、私はその後の木山君達の様子を知ろうとしなかったから。でも、心を整理してからもう一度読んでみると、おじいさんの死は、決してムダじゃなかった事に気が付いた。木山君は私立中、山下君は公立中、そして河辺君はチェコスロバキアへ。それぞれの進む道は違うけれど、きっと思いはひとつのはずだ。なんと言っても三人の心の中に、おじいさんは生きているのだから。

夏の河原でおじいさんの見せてくれた、ささやかな花火大会。おじいさんはこの時、自分の死期が近いことに気付いていたのだろう。お好み焼き屋で交わした約束を守れると思っただろうか。どっちにしても私は、その時のたのしいおじいさんが好きだった。死んでしまうなんて、これっぽっちも考えなかった。いくらあらずじに「死んだ人が見たい！」なんて書いてあったとしても。

おじいさんが死んでやっとな、「ぼく」は将来の夢がわかってよかったと思う。喜び、悲しみ、他人の死……そんなことをすべて書きとめておこうとする木山君は、年下であつてもとても立派だ。私ならきっと悲しみなんてすぐに捨ててしまおうとするはずだ。覚えて

いなくてはならない事でも、現実の厳しさに絶えきれずに逃げ出すはずだ。私はそんな弱い人間だから。

この本は、もともと夏休みの読書感想文の宿題のために借りたものだった。この本を選んだ理由だって表紙のデザインがかったよかつたからだ。でも、いざ読んでみると違った。友情の大切さ、そして人の死を乗りこえて生きてゆくことがどんなものか、この本によってわかったような気がする。「人の死は悲しい」それだけでこの本は終わらなかった。それによって小六の三人の少年達が、強く生きてゆこうとする、すばらしい物語だった。

私は今、昔祖父父が使っていた部屋で生活している。死んでからしばらくは、怖くて入れなかったはずなのに、今ではここでないところ着かない。祖父父は今、あの世で幸せに暮しているだろうか。正直な所、私は祖父父の事を「あの世の知り合い」と言う自信はない。心のどこかに後ろめたい思いがある。

しかし、いつかきっと、私も自信をもって「私にはあの世に知り合いがいる。」そう、言える日があると信じたい。

最後に、もう一度だけ言いたい。この本に出会えて、本当によかった、すばらしい一冊だった、と。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

平成五年度 教職員名簿

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

。前校長	金山 正智
。校長	近野 功
。教頭	齊藤 正宏
。教諭	井筒 泰三
。 "	村井 貞夫
。 "	高橋 一也
。 "	吉田 安宏
。 "	岩崎 鶴好
。 "	松山 元彦
。 "	辰巳美恵子
。 "	杉山 春吉
。 "	笹谷 巖
。 "	田村 順子
。 "	吉田 孜

。教諭	木村以久子
。 "	中谷 満
。 "	大村 俊幸
。 "	萩野 雅彦
。 "	古館 勉
。 "	吉田美奈子
。 "	信田 博之
。 "	内木 竜
。 "	藤森 剛
。 "	成田 牧
。 "	磯川千代美
。 "	亀谷扶美子
。講師	小林 孝雄
。發護教諭	齊藤 直美
。事務職員	登坂 紀子
。 "	三上のり子
。用務	松本 恭右
。 "	近江谷千春
。給食	熊谷 トシ
。日直	堀 俊邦

編集後記

みなさん、今年度の生徒会誌「五稜」はいかがでしたでしょうか。編集委員の努力によって、今まで以上に充実した内容のものに仕上げることができました。きっと、みなさんの中学校生活の思い出をつづった一冊として満足していただけることと思います。ですから、最初から最後まで、ぜひ、何度も読んで見てもらいたいと思います。

さて、これから三年生は、自分の意志を持ったうえで、それぞれの道を歩んでいくことと思います。また、一・二年生は、五稜中を支えていくようになることと思いますが、その途中で、障害にぶつかったり、悩んだりした場合は、ぜひ、この本を読んで、先生方や友人の励ましを役立ててもらいたいと思います。この「五稜」が、みなさんにとって勇気を与えるものとなってくれば幸いです。

最後になりましたが、この生徒会誌「五稜」を編集するにあたって、御協力していただいた先生方、生徒のみなさん、本当にありがとうございます。

(編集委員長 柏 充)



編集委員

【三年】

柏 充 鍋島麻里

齊藤真由美 西口のぶ

岩間政和高瀬龍文

金沢秀司 市島佑起子

【二年】

杉村哲人 柏 宇宙

河元美佳 菅原宇央

川股礼奈 山村啓子

青木嘉郎 長内啓子

【一年】

東 静香 倉嶋千恵

谷口 貴康

【顧問】

松山元彦先生

内木 竜先生

表紙作品 三年 鍋島麻里

巻頭詩・カット 三年 南部妙水

表紙構成 吉田安宏先生

グラビア 松山元彦先生

平成五年度生徒会誌

「五 稜」 第33号

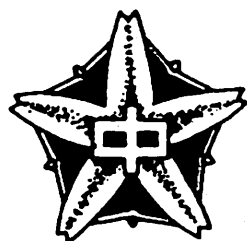
発行日 平成六年三月十五日

発行 函館市立五稜中学校

生徒会

印刷 ㈲久保内印刷所

函館市豊川町七―二六
電話(0166)211-2678



函館市立五稜中学校生徒会